

令和7年度使用

中 学 校 教 科 用 図 書 の
選 定 に 必 要 な 資 料

島根県教育委員会

各発行者記号は以下のとおりである。

記号	発行者名	記号	発行者名
A	東京書籍株式会社	L	株式会社新興出版社啓林館
B	大日本図書株式会社	M	株式会社山川出版社
C	教育図書株式会社	N	数研出版株式会社
D	開隆堂出版株式会社	O	日本文教出版株式会社
E	学校図書株式会社	P	株式会社G a k k e n
F	株式会社三省堂	Q	株式会社自由社
G	教育出版株式会社	R	株式会社育鵬社
H	株式会社教育芸術社	S	株式会社学び舎
I	光村図書出版株式会社	T	あかつき教育図書株式会社
J	株式会社帝国書院	U	日本教科書株式会社
K	株式会社大修館書店	V	令和書籍株式会社

「選定に必要な資料」の観点は以下のとおりである。

観点		観点の説明
1	内容、程度、分量等	記述された内容、程度が、生徒の発達の段階に適合しているか。また、分量が適切であるか。
2	教材の選択や構成等	取り上げられた教材の選択や構成は、学習を効果的に進めるために適切なものになっているか。
3	興味・関心への配慮等	生徒が興味・関心をもって学習できるように工夫されているか。
4	教科の特性、県の実態や課題への適合等	各教科の特性が生かされ、島根県の実態や課題に適合しているか。 ※道徳科の特性が生かされ、島根県の実態や課題に適合しているか。
5	各教科等及び実生活との関連についての工夫	各教科等における資質・能力との関連や、実生活へ生かせる工夫が盛り込まれているか。 ※道徳教育との関連や実生活へ生かせる工夫が盛り込まれているか。
6	その他	観点1～5にあてはまらない内容やその他特筆すべき事項
総括		観点1～6についての記述や感性を育む要素などを総合したその教科用図書の全体的な特徴等

※は、特別の教科道徳の観点の説明を示しています。

選 定 に 必 要 な 資 料

(国語) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○「話すこと・聞くこと」は青、「書くこと」は緑と、領域ごとに色分けされ、どの領域を学ぶのが視覚的にわかりやすいよう配慮されている。(1年p. 6)</p> <p>○「文の成分・連文節」などの文法事項では、色分けとマークや文字情報を併用することで、誰が見てもポイントを押さえやすいよう配慮されている。(1年p. 233-237)</p>	<p>○話し合いについての学習では、例を豊富に示すことで、協働的な学びの中での合意形成の仕方がわかりやすいよう工夫されている。(3年p. 202-208)</p> <p>○「読むこと」の学習で身に付けた力を「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材で生かす構成になっており、身に付けた力を確実に定着させるよう工夫されている。(1年p. 126-133)</p>	<p>○古典の導入で「移り行く浦島太郎の物語」を取り上げ、昔話の変遷を紹介することで古典学習への関心を引き出すよう工夫されている。(1年p. 140)</p> <p>○3年間で計415のデジタルコンテンツが用意され、二次元コードの下に「作者の紹介(動画)」など内容が明示されており、興味をもったものにアクセスしやすくなっている。(3年p. 37)</p>	<p>○「デジタルコンテンツ一覧」では、予習や復習に活用できるデジタルコンテンツが示されており、家庭学習においても主体的に活用できるよう工夫されている。(3年p. 313-314)</p> <p>○「『地域の魅力』の紹介文」では、地域の題材を取り上げた学習に取り組み「総合的な学習の時間」と関連付けられるよう工夫されている。(2年p. 68-72)</p>	<p>○「未来への扉」では未来を考える9つのテーマを設け、単元ごとに関連するテーマを示して、学習内容を実生活や社会と関連付けるよう工夫されている。(1年p. 9, 65)</p> <p>○他教科と関連する内容を多く取り上げ、関連マークを示して、国語の学習内容を他教科等に生かしやすいよう工夫されている。(3年p. 64)</p>	<p>○参考資料などをデジタル化し二次元コード経由にすることで、従来より3学年分で100ページ以上が削減され、持ち運びの負担軽減が図られている。</p> <p>○各単元の扉に、四季を味わう詩歌を印象的な写真とともに掲載して、感性を磨くことができるよう工夫されている。(3年口絵, p. 49)</p>	<p>○各学年末に特定のテーマを取り上げた教材を設け、1年間で身に付けた力を生かし、考えを深めることができるよう工夫されている。(1年p. 220-229, 2年p. 216-225, 3年p. 214-223)</p> <p>○巻末の「『言葉の力』一覧」には、どの学年でどの領域、内容を学習するのが示され、3年間の学習の見通しがもてるよう工夫されている。</p>
F	<p>○「領域別教材一覧」の付けたい力と本編の目標を対応させることで、授業のねらいが明確になるよう工夫されている。(1年p. 6-11, 36-39)</p> <p>○資料編の参考資料には「学習用語辞典」「小倉百人一首」「五十音図とローマ字」など多岐にわたる内容が掲載され、学習が深められるよう工夫されている。</p>	<p>○「読み方を学ぼう」で学んだ読み方のスキルを巻末で一覧にして整理し、さまざまな文章を読む際に活用しやすいよう工夫されている。(1年p. 78, 巻末)</p> <p>○「読むこと」領域終末の「学びを広げる」の学習活動が、次の「書くこと」領域の教材になるように構成され、領域を関連付けた学習活動がしやすいよう工夫されている。(2年p. 198-204)</p>	<p>○各学年で「歌の言葉」として有名歌手の一作品を掲載し、言葉への興味・関心が高まるよう工夫されている。(2年p. 236)</p> <p>○各学年の第6単元「情報を関連づける」は情報の扱い方に特化し、単元の冒頭に漫画を掲載することで、主体的な学びに導くよう工夫されている。(3年p. 150-151)</p>	<p>○「読書の広場」には「古事記」が掲載されており、本県にゆかりのある内容を通して古文に親しむ態度につなげられるよう工夫されている。(1年p. 280-285)</p> <p>○デジタルコンテンツには「読み方を学ぼう」の解説動画、漢字ドリル、古文の朗読音声などが収録され、学びを深めたり家庭学習に生かしたりできるよう工夫されている。(2年p. 100, 110, 112)</p>	<p>○音節、語順、慣用句などの語句や文法の学習では、英語との比較や例示を用いることで、言葉への興味・関心を高められるよう工夫されている。(1年p. 329, 2年p. 247, 3年p. 163)</p> <p>○「情報を関連づける」では、情報を関連付けて読み取ったり意見を書いたりして、現代社会の課題について考えられるよう工夫されている。(1年p. 146-157)</p>	<p>○「話し合いの形式を選ぶ」では、オンラインでの話し合いを取り上げ、学習内容を実生活に生かせるよう工夫されている。(2年p. 314-315)</p> <p>○「線は、僕を描く」では、同じ内容の小説と漫画を比較しながら読むことで、それぞれの特徴に注目して考えを深められるよう工夫されている。(3年p. 252-259)</p>	<p>○各単元は「学びの道しるべ」で目標と学習の流れを示し、「学びを広げる」で定着を図るという学習過程になっており、学習の見通しが立てやすくなっている。(3年p. 168)</p> <p>○各教材の学習過程に沿って「思考の方法」が位置付けられており、考えを整理したり深めたりするための基本的な方法を、他教科等の学習や社会生活に活用できるよう工夫されている。(3年p. 16)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(国語) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
G	<p>○冒頭には入門期教材を設け、領域ごとに学びをスモールステップ化し、小中の円滑な接続を図ることができるよう工夫されている。(1年p. 16-47)</p> <p>○教材の読み方や読むときの観点、学習活動のポイントを示す「学びナビ」を教材の前に配置して、生徒が目的意識をもって学習に取り組めるよう工夫されている。</p>	<p>○古典では「おくのほそ道」と杜甫と李白の漢詩を取り上げ、相互のつながりを捉えることでそれぞれの作品の理解が深まるよう工夫されている。(3年p. 118-140)</p> <p>○説明文教材では、異なる職業、立場で社会で活躍してきた筆者の文章を読み比べることで、自分の考えを深めることができるよう工夫されている。(3年p. 92-104)</p>	<p>○「情報・メディアと表現」では、生徒になじみのある漫画を掲載することで、興味・関心をもって学習に取り組み、表現の特徴について考えられるよう工夫されている。(1年p. 232-235)</p> <p>○「学びのチャレンジ」では、行事や他教科等とのつながりを意識した題材を問題に取り上げることで、学習意欲を高めるよう工夫されている。(2年p. 212-224)</p>	<p>○学習用語の初出ページや解説ページをまとめた索引が巻末に設けられ、家庭学習の際に活用できるよう工夫されている。(1年p. 323-324)</p> <p>○近代文学作品を各学年1作品ずつ掲載する他、「広がる本の世界」では3年間計334冊の本を27回にわたって紹介しており、読書への意欲を喚起するよう工夫されている。</p>	<p>○「情報・メディアと表現」の「実用文の情報を捉えて生かす」では、取扱説明書や広告、料理のレシピなどを取り上げ、学んだことを実生活で生かせるよう工夫されている。(3年p. 110-113)</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材末尾の「学びを生かす」では、具体例を挙げ、学んだことを他教科等の学習や生活に生かせるよう工夫されている。(1年p. 47)</p>	<p>○「『ふるさと』を巡る」では、文学にゆかりのある各地の風景写真を掲載し、作者や作品とともに情景を確認できるよう工夫されている。(裏表紙)</p> <p>○1年生は37字×16行、2・3年生は42字×18行と、発達の段階を踏まえてページの書式が調整されている。(1年p. 38-43, 3年p. 24-29)</p>	<p>○SDGs教材を全学年に設け、文章を読み、考え、意見を交流することの繰り返しにより、主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫されている。(3年p. 222-231)</p> <p>○教材の前の「学びナビ」(教材の読み方や読むときの観点、学習活動のポイントを記したものの)によって学びを見通し、目的意識をもって学習に取り組めるよう工夫されている。(1年p. 36-37)</p>
I	<p>○「価値を語る」では、文章を比較する観点を具体的に示すことで、気づいたことを話し合い、読みを深めることができるよう工夫されている。(2年p. 166-179)</p> <p>○全学年で「持続可能な開発目標(SDGs)」と情報を関連付けた単元が設定されており、社会・世界との関わりを考えさせるよう工夫されている。</p>	<p>○音読・発表の仕方、ノートを取り方、辞典等の使い方など、中学校の学習のスタートにあたって学び方の確認ができるよう配慮されている。(1年p. 16-20)</p> <p>○「学びへの扉」では「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から自己の学習を振り返ることができるよう工夫されている。(3年p. 134)</p>	<p>○「資料や機器を活用して話す」では「コピペ」が資料作成の題材例として使用されており、身近な話題をもとに興味・関心がもてるよう工夫されている。(2年p. 33)</p> <p>○古典の学習では、作品の登場人物や全体像の図解、関連事項のつながりの図などが掲載され、視覚的に捉えやすいよう工夫されている。(1年p. 156, 2年p. 141-145)</p>	<p>○巻頭折込ページには、「思考の地図」と題して、発達の段階に適した思考ツールが紹介されており、活用を通して思考が深められるよう工夫されている。(1年p. 9-10)</p> <p>○「本の世界を広げよう」では、3年間計447冊の本を紹介することで、読書への意欲を喚起する工夫がされている。(3年p. 94-96)</p>	<p>○「学習の見通しをもとに」には他教科等との関連が明記され、カリキュラム・マネジメントを意識した指導計画を編成しやすいよう配慮されている。(1年p. 6-8)</p> <p>○「実用的な文章を読もう」では、資源とごみの分別についてのウェブページやポスターが掲載され、実生活に即した情報活用となるよう工夫されている。(3年p. 76-77)</p>	<p>○複数の立場からの意見を読む教材が掲載され、論理的な思考力を養い、自分の考えを確立できるよう工夫されている。(3年p. 130-135)</p> <p>○巻末に「ICT活用のヒント」が掲載され、学習で効果的にICTを活用できる場面を明示して、日常的に活用できるよう配慮されている。</p>	<p>○巻末の「語彙ブック」には、思考や心情を的確に言語化するための語彙が多数紹介されており、表現力や思考力の育成につながるよう工夫されている。(2年p. 267-274)</p> <p>○CBTでの書き込みや自己採点が可能な問題などのデジタルコンテンツの一覧表を巻末に配置して、自主学習や家庭学習での活用の幅が広がるよう工夫されている。(3年p. 336)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(書写) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○B5変型判サイズで、各学年の内容を掲載した本体104ページと「書写活用ブック」41ページ、計145ページで構成されている。</p> <p>○主な毛筆教材は1年3教材、2年3教材、3年なし、となっている。硬筆教材として国語科教科書掲載の小説・古文が各1教材ある他に、毛筆と関連付けて学習する教材が掲載されている。</p>	<p>○「身につける」「使い分ける」「使いこなす」と3年間を通して系統的に学習を進めていけるよう構成されている。(p. 2-3)</p> <p>○1年「はじめに」の「基本の点画の書き方」や「字形と配列を整える書き方」では、小学校の学習内容を確認できるよう配慮されている。(p. 10-13)</p>	<p>○文字を整えて書くための汎用的なポイントとして「書写のかぎ」として段階的・系統的に配列し、1時間の学習内容を焦点化して示している。(p. 28-29)</p> <p>○学校生活や家庭生活の中の疑問やつまづきをもとにした活動が設定されており、興味・関心をもてるよう工夫されている。(p. 24-25, 62-63)</p>	<p>○「文字といっしょに」では石州半紙や因州和紙が取り上げられ、伝統的な文字文化に興味・関心をもてるよう工夫されている。(p. 58-59)</p> <p>○職場訪問や防災訓練といった地域に関わる学習で書写の学習を活用した例を示し、参考にできるよう工夫されている。(p. 39-41, 65-67)</p>	<p>○「教科関連マーク」を付すことで、国語科や他教科等の学習と関連付けて学ぶことができるよう工夫されている。(p. 34)</p> <p>○書写テストが各学年の最後に設けられており、学習内容の確認や定着を図ることができるよう配慮されている。(p. 44, 70, 88)</p>	<p>○「発展」として書の古典や高校書道の活動を紹介したコラムを掲載し、高等学校での学びに興味・関心をもてるよう配慮されている。(p. 101-104)</p> <p>○「書き初めをしよう」には多くの教材例が示され、選択できるよう配慮されている。(p. 92-93)</p>	<p>○硬筆文字から学習のポイント(「書写のかぎ」)に気付き、毛筆で確かめ、硬筆で他の文字を書くことで学びを生かし、振り返ることができるよう単元の学習過程が工夫されている。</p> <p>○行書の特徴的な4つの動きをパターン化して示し、パターンを組み合わせることにより行書の動作を習得しやいよう工夫されている。(p. 26)</p>
F	<p>○B5判サイズ、120ページで、「この教科書の使い方」「学習のはじめに」「本編」「資料編」の4つのまとまりで構成されている。</p> <p>○主な毛筆教材は1年4教材、2年3教材、3年なし、となっている。毛筆の後に書き込み式の硬筆教材「書いて身につけよう」が配置されている。</p>	<p>○「書き方を学ぼう」では右ページで書き方のポイントをつかんでからポイントがどこに使われているかを見つけ、左ページを見て書く構成になっている。(p. 34-35)</p> <p>○「毛筆補充教材」では同じ教材の楷書と行書を並べて豊富に掲載し、比較して学習できるよう配慮されている。(p. 87-89)</p>	<p>○国語科教科書掲載の詩・歌詞の手書き文字を掲載し、硬筆への興味・関心をもてるよう配慮されている。(巻頭・巻末)</p> <p>○「身のまわりの文字」の単元では、地域のポスターや手書き文字に関わる達人を取り上げ、文字文化の豊かさにふれ、文字文化の魅力を感じられるよう工夫されている。(p. 68-71)</p>	<p>○日常生活で使用頻度が高い都道府県名を、地図上で位置と特産品を確認しながらなぞり書きできるよう工夫されている。(p. 52-53)</p> <p>○「情報誌を作ろう」の単元では、地域の魅力をもとめた情報誌の作成を取り上げ、地域の伝統やよさに目を向ける学習で書写の学びを活用できるよう工夫されている。(p. 64-65)</p>	<p>○行事を伝える新聞や名言集を掲載し、行事や他教科等と関連を図ることができるよう工夫されている。(p. 44-45, p. 74-75)</p> <p>○書き方のポイントの一覧表を巻末に付すことで、3年間の学習内容を確認できるよう工夫されている。(p. 117-120)</p>	<p>○単元末に、硬筆の適用題と学んだことを自分の言葉で書き残す欄が設けられ、単元の学びを振り返ることができるよう工夫されている。(p. 43)</p> <p>○巻末に二次元コード一覧表があり、必要な資料を探しやすいよう工夫されている。(p. 104)</p>	<p>○右ページには書き方のポイント、左ページには教材というシンプルな紙面構成にすることで、生徒が学習過程を捉えやすいよう工夫されている。</p> <p>○全11教材の硬筆による書き込みページでは、毛筆での学びを踏まえて書くことにより、実生活で生かせる技能が身に付けられるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(書写) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
G	<p>○AB版サイズ、144ページで、全学年共通、各学年の内容、資料部分の大きく3つのまとまりで構成されている。</p> <p>○主な毛筆教材は1年4教材、2年3教材、3年1教材となっている。主な硬筆教材として、国語科教科書掲載の古典作品の本文が各学年に豊富に掲載されている。</p>	<p>○毛筆の紙面は、右ページで教材文字をよく見ながら左ページの学習ステップでポイントを確かめる構成になっている。(p. 44-45)</p> <p>○「行書の筆使い『大』」では、朱墨の図版を見開き2ページに配置して、穂先の動きを写真で示すことにより、行書の筆使いを理解できるよう工夫されている。(p. 42-43)</p>	<p>○冒頭の「目的に合わせて書こう」では学校生活等で文字を書く場面を紹介し、目的意識や相手意識をもって書写の学習に取り組めるよう工夫されている。(巻頭, p. 1)</p> <p>○日常生活で使用する筆記具を写真で紹介し、場面に応じて筆記具を使い分けて効果的に書くことについて、興味・関心をもてるよう工夫されている。(p. 5)</p>	<p>○「多様な表現による文字」では、松江城をはじめとする全都道府県の城の碑文等を紹介し、文字文化への興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 100-103)</p> <p>○「学習を生かして書く」では地域に関わる新聞・ポスター等の例が掲載され、地域に関わる学習活動で書写の学びを活用しやすいよう工夫されている。(p. 90-93)</p>	<p>○効果的なノートの書き方を学ぶことで、書写の学びを他教科等の学習に生かすことを意識できるよう工夫されている。(p. 14-15)</p> <p>○「校庭の植物の観察をレポートにまとめる」や「エアメールの書き方」など各教科等と関連した教材を掲載することで、教科等横断的なカリキュラム編成に配慮されている。(p. 32-33, p. 113)</p>	<p>○漢字一覧表は部首ごとに行書の点画からも漢字を調べられるように工夫されている。(p. 121-133)</p> <p>○コラム「日本建築と『書』」では日本建築の中の書を取り上げ、文字文化への興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 88-89)</p>	<p>○試し書きで課題を見つけてから毛筆で練習し、その学びを生かして他の文字を書いた後にまとめ書きで変容を確かめ学習を振り返ることができるよう学習過程が工夫されている。</p> <p>○「話し合い活動をおとした学び方」ではまとめ書きや筆使いについて話し合う際の学習用語やポイントがまとめられ、対話的な学びにつながるよう工夫されている。(p. 11)</p>
I	<p>○B5変型判サイズ、165ページで、「書写ブック」「中学校スタートブック」「書き初めマスターブック」各学年の内容の他、2つの資料部分で構成されている。</p> <p>○主な毛筆教材は1年3教材、2年3教材、3年2教材となっている。硬筆教材には、国語科教科書掲載の小説・古文・和歌が掲載されている。</p>	<p>○「考えよう」「確かめよう」「生かそう」という学習の進め方を明示し、学習のポイントを「学びのカギ」としてまとめることで、何をどう学ぶかをわかりやすくしている。(p. 54-55)</p> <p>○毛筆教材では、「確かめよう」に穂先を示した朱墨の写真を掲載し、運筆を確認しながら練習できるよう工夫されている。(p. 41, 55)</p>	<p>○1人1台端末の活用の仕方やプレゼンテーションのスライドなど、ICT機器を使う際のポイントについて具体例を掲載し、ICT機器を活用した学びに配慮されている。(p. 34-36, 117)</p> <p>○行書の書き方の4つの特徴を「行書スイッチ」として示し、意識して書くことができるよう工夫されている。(p. 52-53)</p>	<p>○「全国文字マップ」では出雲大社や鳥取砂丘の碑文等が紹介され、身の回りの文字文化への興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 90-93)</p> <p>○ユニバーサルデザインフォントなど活字の書体を取り上げ、目的や相手に応じた文字の使い分けについて考えることができるよう工夫されている。(p. 94-97)</p>	<p>○「書写ブック」「季節のしおり」では国語科教科書掲載の古文や語彙をなぞって書くことにより、他の指導事項と関連を図ることができるよう工夫されている。(p. 18-19, 106-107)</p> <p>○行事の応援旗や著名人の自筆の署名等の例を取り上げ、書写の学びを実生活に生かせるよう工夫されている。(p. 80-81, 104-105)</p>	<p>○「部分別行書一覧」「書き初めマスターブック」には名前の文字の配置が示されている。(p. 138-139, 142-143)</p> <p>○他教科等や実生活と関連付けた教材が多く、興味・関心を引き出しながら授業を進めることができる構成となっている。(p. 86, 98-99)</p>	<p>○楷書と行書を比較して学習のポイント(「学びのカギ」)を理解し、半紙原寸大の手本を使って確かめる流れで、軽重を付けた紙面構成になっている。</p> <p>○取りはずして使える別冊全28ページの硬筆練習帳「書写ブック」に硬筆で書き込むことにより、毛筆の学びを硬筆に生かすことができるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(地理) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○「世界と日本の地域構成」は13時間、「世界のさまざまな地域」は40時間、「日本のさまざまな地域」は57時間の配当時間数となっており、「持続可能な地域の在り方」を最後の編に含んでいる。</p> <p>○「スキル・アップ」と、「資料から発見！」で、学習に必要な技能を身に付けられるよう工夫されている。(p. 15, 76)</p>	<p>○内容ごとに「学習課題」「チェック」「トライ」を設け、本時の問いとそれに対するまとめができるように工夫されている。また、「地理を学ぶ5つのミカタ」で視点を示して思考が深まるよう工夫されている。(p. 6, 10-11)</p> <p>○「世界のさまざまな地域」の単元末には、「地球的課題をふりかえろう」が設定され、広い視野で振り返ることができるよう工夫されている。(p. 75)</p>	<p>○世界や日本の各地で暮らす中学生が自分の住んでいる地域を語るコラム「聞かせて！中学生」を設け、世界を身近に感じることができるよう工夫されている。(p. 60)</p> <p>○「世界の諸地域」や「日本の諸地域」の導入では、大きな写真資料と学習課題に関連する写真を掲載し、関心をもって課題をとらえることができるよう工夫されている。(p. 118-119, 196-197)</p>	<p>○竹島の写真と地図(位置図と地形図)が掲載され、隠岐の島町であること、韓国の不法占拠に日本が抗議していること、自然環境や豊かな漁業資源があることなど地理的特色が記載されている。(p. 28)</p> <p>○海士町の遠隔授業や松江市のルビーを活用した地域おこし、浜田自動車道の開通による人の移動の変化を取り上げている。(p. 199, 201, 205)</p>	<p>○他分野や他教科の関連ページに二次元コードからアクセスできるようになっており、分野や教科をつないだ学びを展開しやすいよう工夫されている。(p. 24)</p> <p>○これからの社会を考えるきっかけとして、「未来にアクセス」というコラムを設け、身近な視点で社会的な問題を考えることができるよう工夫されている。(p. 231)</p>	<p>○二次元コードを節の扉や「学習課題」の隣等に掲載することで、生徒が主体的に情報にアクセスすることができるよう工夫されている。</p> <p>○小学校で取り上げた学習内容をふまえて、地理的な見方・考え方を説明しており、学習を進める際に生徒が理解できるように工夫されている。(p. 6)</p>	<p>○単元ごとに設けられた「探究課題」を、単元末に話し合い、深めることができるよう構成されている。また、その際に思考ツールを活用し、思考力、判断力、表現力等を身に付けることができるよう工夫されている。(p. 127)</p> <p>○環境・エネルギー、人権・平和など5つのテーマやSDGs等の現代的な諸課題を意識して学習を進められるよう工夫されている。(巻頭3-p. 1, 39)</p>
G	<p>○「世界と日本の地域構成」は9時間、「世界のさまざまな地域」は36時間、「日本のさまざまな地域」は58時間の配当時間数となっており、地域の未来について考える「地域のあり方」を最後の編に含んでいる。</p> <p>○「地理の技」では、地図や地球儀、グラフの基本的な扱い方が身に付けられるよう工夫されている。(p. 7)</p>	<p>○内容ごとに「学習課題」「確認」「表現」を設け、問いとそれに対するまとめができるよう配慮されている。「学習したことを振り返ろう」で思考力、判断力、表現力等を高めることができるよう工夫されている。</p> <p>○単元末に学習したことを活用してまとめる場を設け、自分の言葉でこれまでの学習を振り返り、学びが定着するよう工夫されている。(p. 185)</p>	<p>○導入資料や追究のヒントになる資料を解説した「LOOK!」や学習内容に関するコラム「地理の窓」を設け、興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 6, 9)</p> <p>○折込ページでは、宇宙からとらえた日本列島と伊能図を並記し、日本地理の学習や地図を活用した学習への興味・関心を高める工夫がされている。(p. 128-129)</p>	<p>○竹島の写真と地図(南東を上にした位置図)が掲載され、島根県への編入の経緯と韓国が不法に占拠するまでの経緯、日本が抗議し、話し合いを提案しても韓国は受け入れていないことが記載されている。(p. 21)</p> <p>○石見神楽、海士町のロゴマークやかんこ舟、松江市の雨温図、三江線の代替バス、石見空港の状況が取り上げられている。(p. 186-187, 189, 192, 197)</p>	<p>○他分野と関連のあるところには分野と内容が、他の地理的分野と関連のあるところにはページと内容が示されている。(p. 15)</p> <p>○6つのテーマで持続可能な社会にむけて考察できる「クロスロード」や第4章「地域のあり方」で、社会参画への意識や、持続可能な社会の創造への意識が高まるよう工夫されている。(p. 260-261, 278-287)</p>	<p>○冒頭のページでは、小中学校の学習の接続や地理的な見方・考え方、地図のきまり等がわかりやすく説明されている。(巻頭1-2, p. 2-3)</p> <p>○各編の扉の二次元コード「学びリンク」では、学習内容に関連するサイトが紹介され、学習を広げ深めることができるよう工夫されている。(p. 5)</p>	<p>○様々な箇所にSDGsで示されている17項目のアイコンが掲載されており、学習内容がSDGsとどのような関連があるのか、把握しやすくなるよう工夫されている。(p. 60)</p> <p>○各編の冒頭に、その編や章においてどのような学習を行うのが整理されており、生徒が長期的に何を学んでいくのか見通しをもてるよう工夫されている。(p. 5)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(地理) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
J	<p>○「世界と日本の地域構成」は8時間、「世界のさまざまな地域」は41時間、「日本のさまざまな地域」は56時間、「地域のあり方」に5時間の配当時数となっている。</p> <p>○単元を貫く「章・節の問い」や学習課題の提示が統一されたレイアウトで配置され、単元全体の見通しがもてるよう工夫されている。(p. 2-5)</p>	<p>○内容ごとに「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」を設け、本時の問いとそれに対するまとめができるよう工夫されている。本文横に補足や「解説」を設け、学習を深めることができるよう工夫されている。</p> <p>○単元末の「学習を振り返ろう」では、知識を確かめ、段階をふみながら、地理的な見方・考え方を働かせて学習をまとめることができるよう工夫されている。(p. 13)</p>	<p>○学習内容に関連のある話題を取り上げた「地理プラス」や環境・防災・人権など6つのコラムが掲載されており、「未来に向けて」では、学習への興味・関心を高めたり、学びを深め、広げたりすることができるよう工夫されている。(p. 83-85)</p> <p>○比較により地域の特徴をとらえる写真資料が多く掲載され、生徒が興味・関心をもって取り組むことができるよう工夫されている。(p. 52)</p>	<p>○竹島の写真と地図(位置図)が掲載され、隠岐の島町の所属と島根県への編入、韓国の不法占拠等が記載されている。また、昔の竹島の漁業や竹島の日についての記載もある。(p. 21)</p> <p>○「人々を呼び寄せる地域の取り組み」で、出雲大社や石見神楽の写真、本県を訪れる観光客数の推移が掲載してある。(p. 194)</p>	<p>○小学校や他分野・他教科との関連があるページの下には、分野・教科とその内容が示されており、教科、分野横断的な学習に対する配慮がある。(p. 2)</p> <p>○分野間のつながりを通して生徒が社会的事象を考えたり、学びを深めたりするために「地図帳活用」を設け、地図帳と学習内容のつながりがわかりやすくなるよう工夫されている。(p. 210)</p>	<p>○巻頭で「単元を通じた学び」や「地理的な見方・考え方」「考えを整理する方法」等、学習のポイントについて整理されている。(巻頭5-9)</p> <p>○学習の理解を助ける動画サイトやデジタルコンテンツにつながる二次元コードが多く掲載され、学習を深めることができるよう工夫されている。(p. 10)</p>	<p>○単元ごとに設定されている「問い」を意識しながら授業を展開できるよう工夫しており、単元末には、学びを深めるために対話的な学習課題が設定されている。(p. 62-63)</p> <p>○「アクティブ地理」では、地理的な見方・考え方を働かせ対話を通して課題解決を検討する機会を設け、学びのつながりを意識できるよう工夫されている。(p. 90)</p>
0	<p>○「世界と日本の地域構成」は12時間、「世界のさまざまな地域」は36時間、「日本のさまざまな地域」は、60時間の配当時数となっており、「地域の在り方—宮崎市を例に—」を最後の編に含んでいる。</p> <p>○「スキルup」で、地理の学習に必要な技能を6種類に整理し、系統立てて習得できるよう工夫されている。(巻頭9, p. 8)</p>	<p>○内容ごとに「学習課題」「確認」「表現」を設け、本時の問いに対するまとめをしながら学習内容を深めることができるよう工夫されている。(p. 8-9)</p> <p>○単元末の学習のまとめでは、様々な思考ツールを用いて自分の考えをまとめることができようになり、「議論してみよう」では、学習内容の理解を深める主体的・対話的な学びにせまるための問いが用意されている。(p. 249)</p>	<p>○学習に関連のある話題を取り上げた「地理+α」や作業を通して学習する「トライ」で、興味・関心をもって学習の理解を広げたり深めたりできるよう配慮されている。(p. 19)</p> <p>○第1章にはクイズやゲームを取り入れ、学習に入りやすい仕掛けがなされている。単元の最初には写真が多く使われており、学習への興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 9)</p>	<p>○竹島の地図(位置図)と写真が掲載され、島根県への編入の経緯と韓国の不法占拠について、日本が平和的な解決をめざしていることが記載されている。また、「領土・主権展示館」や「竹島資料室」の写真が掲載されている。(p. 21)</p> <p>○松江市の雨温図、海士町の「島留学」について記載されている。(p. 188, 199)</p>	<p>○「持続可能な地域をめざして」では、文化や防災、自然環境、地域等身近なテーマを深く学習できるよう工夫されている。(p. 154)</p> <p>○地域づくりについて、実生活とのつながりを考えることができるよう、代表者の声を紹介し、インタビュー動画にアクセスできるよう工夫されている。(p. 206)</p>	<p>○地理的な見方・考え方について、大きなイラストを活用し、わかりやすい言葉で解説している。(巻頭3-4)</p> <p>○「タブレットマーク」が表示してあるページでは、二次元コードで関連するサイトや動画等にアクセスして学習を広げ、深めることができるよう工夫されている。(巻頭8)</p>	<p>○内容ごとに働かせる地理的な見方・考え方を示した課題を設定し、単元のまとめでは様々な思考ツールで思考力、判断力、表現力等を身に付けることができるよう工夫されている。(p. 60-61)</p> <p>○各章や節において生徒自らが問いを立て、仮説を立てながら検証していくことができるように資料の選択や配置が工夫されている。(p. 207)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(歴史) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○見開き2ページで1時間の授業が構想され、写真や図表などの資料がバランスよく配置されている。また、本文は行間が広く、ふりがなもたくさんふってあり読みやすいよう配慮されている。</p> <p>○「比較」「関連」のコーナーや「スキルアップ」では、情報を読み取ったりまとめたりする技能が身に付けられるよう構成されている。(p. 36, 131)</p>	<p>○各章の導入では、「小学校の社会で習ったことば」やその時代の想像図が記載され、キャラクター年表で時代の流れをとらえることができるよう工夫されている。(p. 22-23, 64-65)</p> <p>○「みんなでチャレンジ」のコーナーでは話し合いのテーマが例示されており、対話的な学び、協働的な学びを意識した構成となっている。(p. 69, 144, 152)</p>	<p>○「地域の歴史を調べよう」では、地域の歴史を調べる学習の例を手順とともに具体的に示し、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 40-41, 138-139)</p> <p>○コラム「もっと知りたい」では、琉球文化やアイヌ文化について詳しく説明され、興味・関心をもって文化の多様性を理解できるよう工夫されている。(p. 86-87, 120-121)</p>	<p>○コラム「もっと知りたい!」では、「島根県と神話」を取りあげ、出雲神話や佐陀神能について詳しく紹介されている。(p. 58-59)</p> <p>○「領土をめぐる問題の背景」では、竹島について写真や当時の地図を用いて、島根県への編入の経緯が記載されている。また、韓国による不法占拠や我が国の対応についても記載されている。(p. 176, 253)</p>	<p>○小学校での学習や、地理的分野、公民的分野とのつながりが強い内容について、関連マークを付し、学習内容を深められるよう工夫されている。(p. 98, 177, 209)</p> <p>○コラム「もっと知りたい!」では、人権・平和、環境・エネルギーなどのマークが示され、社会の諸課題との関連が意識できるよう工夫されている。(p. 218, 266)</p>	<p>○二次元コードが見開き2ページの同じ個所に配置されており、各時代ごとにまとめられたサイトにアクセスできるようになっている。</p> <p>○Xチャート、フィッシュボーン図など多様な思考ツールで、生徒の思考が深まるよう支援されている。(p. 96, 142)</p>	<p>○章末の「確かめよう」「ふり返ろう」「深めよう」では、くらげチャートやXチャートを使ってまとめ、探究することで、時代を大観できるよう工夫されている。(p. 94-96, 140-142)</p> <p>○地理的分野や公民的分野、他教科等との連携を意識させる内容となっており、人権・平和、環境・エネルギーといった現代社会の課題について考える内容になっている。</p>
G	<p>○本文の行間が広く読みやすい。また、写真や図表など資料の間隔も余裕があり、見やすい構図になるよう工夫されている。</p> <p>○各章末の見開き2ページでは、日本の動きと世界の動きを年表で比較することができるようになっている。また、それぞれの時代の特徴を生徒自身が説明するよう工夫されている。(p. 56-57, 92-93, 140-141)</p>	<p>○各節で「節の問い」を記載し、「節をとらえる」では、生徒がキーワードを使って時代をとらえることができるよう工夫されている。(p. 38, 43)</p> <p>○各章の終わりに、「学習のまとめと表現」があり、「HOP!」「STEP!」「JUMP!」の3段階で、生徒自身が各章のまとめをすることができるよう工夫されている。(p. 56-58)</p>	<p>○「歴史ゲームで遊ぼう」では、歴史人物クロスワードやカード作りなどを通して、興味・関心をもって小学校での学習を振り返ることができるよう工夫されている。(p. 4-7)</p> <p>○1単位時間ごとに時代スケールが配置されるとともに、タイトルにより学習する歴史的事象の特徴を表すことで、興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 50, 208)</p>	<p>○コラム「歴史を探ろう」の「神話にみる古代の人々の信仰」では出雲大社について、「『銀の島』日本」では石見银山について、詳しく記載されている。(p. 52, 106-107)</p> <p>○コラム「歴史を探ろう」の「隣国と向き合うために」で、竹島について編入の経緯や韓国の不法占拠、政府の対応について記載されている。(p. 266)</p>	<p>○「歴史を探ろう」という特集ページでは、SDGsの視点を用いて、当時の人々の暮らしと現在の暮らしとのつながりを考えられるよう構成されている。(p. 138-139)</p> <p>○「身近な地域の歴史を調べよう」では、情報の集め方やまとめ方、発表の仕方などの活動について詳しく説明されている。(p. 12-18)</p>	<p>○コラム「歴史の技」では、二次元コードから、資料や動画を閲覧できるようになっている。(p. 25, 101, 219)</p> <p>○巻末の「世界地図の歴史」では、世界の形が歴史上どのように考えられてきたのかについて、興味・関心を高める資料が掲載されている。</p>	<p>○「歴史の窓」や「歴史を探ろう」など学習内容を深めるページを取り入れ、多面的・多角的な視点で歴史的事象がとらえられるよう工夫されている。(p. 65, 116-117)</p> <p>○章末の「学習のまとめと表現」では、段階的に時代の特徴を振り返り、時代を大観し自分の歴史観を形成できるよう工夫されている。(p. 202-204, 248-250)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(歴史) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
J	<p>○見開き2ページにイラストや図表等が豊富に配置されている。また、コラム「未来に向けて」が数多くに掲載されており、現在との関連を考えやすくなるよう工夫されている。(p. 78-80)</p> <p>○特集ページ「アクティブ歴史」やコラム「歴史を探ろう」では、学習内容を深めたり、違う視点から捉えたりできるよう工夫されている。(p. 156-157, 246-247)</p>	<p>○「各章の問い」や「各節の問い」が、導入で示されており、見通しをもって段階的に課題解決ができるよう工夫されている。(p. 63, 227)</p> <p>○「タイムトラベル」という時代の想像図が章の導入に掲載され、時代のイメージを膨らませやすくするとともに、前の時代との比較によって、自分の考えをまとめやすくしている。(p. 114-115, 134-135)</p>	<p>○「歴史を探ろう」の「昆布ロードと北前船」では、交易が各地域の食文化に影響を与えたことが特集されている。また、コラム「歴史プラス」で、生徒の興味・関心を高める内容になっている。(p. 142-143)</p> <p>○「世界とのつながりを考えよう」では、世界地図上にイラスト等で各地域の歴史的事象や地域間のつながりを示し、世界の動きに興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 44-45, 110-111)</p>	<p>○荒神谷遺跡の銅剣を取り上げ、コラム「未来に向けて」で石見神楽を取り上げている。また、コラム「地域史」で石見銀山について記載されている。(p. 29, 49, 113)</p> <p>○竹島について、本文に島根県への編入が記載されている。また、コラム「日本の領土画定と近隣諸国」で、編入の経緯や韓国の不法占拠などについて記載されている。(p. 195, 287)</p>	<p>○コラム「未来に向けて」では、防災や人権・多文化共生の視点で、現在でも参考となる先人たちの取組が紹介されている。(p. 97, 244-245)</p> <p>○巻末の「これからの社会を構想しよう」では、歴史とSDGsのつながりを考え、これからの社会について、テーマに沿ってグループで考えられるよう構成されている。(p. 307-309)</p>	<p>○二次元コードからデジタルコンテンツごとに関連サイトにアクセスできるようになっている。(p. 34, 76)</p> <p>○ページ右側の年表で、学習する時代が確認できるとともに、巻頭や巻末の年表と対応させ、時代の推移や世界の動きを意識できるよう工夫されている。</p>	<p>○章末の「学習を振り返ろう」では、年表や図表を使って、課題に対する自分の考えをまとめられるよう工夫されている。(p. 60-62, 224-226)</p> <p>○「タイムトラベル」は、生徒の興味・関心を高めるとともに、本文の説明内容との関連をつかみ、時代が大観できるような想像図となっている。(p. 64-65, 134-135)</p>
M	<p>○見開き2ページの写真・図表などの資料が豊富で、本文では、歴史的事象が丁寧に説明されている。また、用語解説が側注に記載されている。</p> <p>○日本史と世界史の年表が写真や絵画資料などの資料とともに並記され、世界地図も各章に掲載されるなど、世界の動きと関連付けて学習できるよう工夫されている。(p. 102-103, 154-155)</p>	<p>○見開き2ページに1～2個の学習課題を示して見通しをもたせ、終末の「ステップアップ」では、さらに学習内容を深められるように新たな課題が示されている。(p. 116-117)</p> <p>○「歴史を考えよう」や「歴史へのアプローチ」で、絵巻物や江戸時代の名所の絵図などから資料を読み取り、学習内容を深めるよう工夫されている。(p. 76-77, 144-145)</p>	<p>○「地域からのアプローチ」では、特定の地域を取り上げ、その時代と関連のある史跡や特産品について、地域の特徴をふまえて紹介されている。(p. 58-59)</p> <p>○世界地図を用いて世界の様子や遺跡などがイラストで示されている。世界の変化について興味・関心をもって読み取れるよう工夫されている。(p. 110-111)</p>	<p>○「ヨーロッパ人との出会い」で、石見銀山を示した地図が掲載され、当時の海外における銀の需要と石見銀山の重要性について説明されている。(p. 112-113)</p> <p>○「歴史へのアプローチ」の「日本の領土の変遷」では、竹島の島根県への編入と韓国による不法占拠の経緯について記載されている。(p. 268-269)</p>	<p>○「歴史を考えよう」では、主権者の育成という観点から、普通選挙や日本国憲法について考えられるよう構成されている。(p. 228-229, 260-261)</p> <p>○「歴史へのアプローチ」では、琉球の歴史と文化、アイヌの歴史と文化が詳しく紹介され、日本における文化の多様性について考えられるよう構成されている。(p. 88-91)</p>	<p>○二次元コードから様々なサイトにアクセスでき、デジタルコンテンツを見ることが出来る。</p> <p>○「身近な地域を調べよう」では、調査のスキルが項目ごとにまとめてあり、他の教科等の学習にも活用できるよう説明されている。(p. 8-13)</p>	<p>○「地域からのアプローチ」で、地方史からの視点を大切にしており、日本史と世界史のつながりだけでなく、自分自身と歴史の距離を近付けるよう工夫されている。(p. 58-59, 250-251)</p> <p>○章末のまとめでは、地図や図表を活用し、視点を明確にしてまとめ、直接記入できるようになっており、歴史を大観できるよう工夫されている。(p. 60-61, 100-101)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(歴史) No. 3

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
0	<p>○時代ごとの特徴を読み取るために、資料が多数掲載されている。特に文化財に関する資料が多く掲載され、人々の営みから時代を大観する学習に役立つよう工夫されている。(p. 78-79, 118-119)</p> <p>○コラム「先人に学ぶ」では、先人の取組に学ぶこと、これからの生き方について考えることができるよう工夫されている。(p. 97, 209)</p>	<p>○各編の「学習のはじめに」で、前時代との比較ができる資料を大きく掲載し、歴史的な見方・考え方を働かせて時代のイメージがつかみやすくなるよう工夫されている。(p. 64-65, 154-155)</p> <p>○「チャレンジ歴史」では、対話的な学びや協働的な学びを通して考えを深める活動が多く取り入れられている。(p. 74-75, 252-253)</p>	<p>○各編の導入の「地図で見る世界の動き」では、世界地図や写真とともに、国の位置や地域とのつながりが示され、興味・関心を高められるよう構成されている。(p. 157)</p> <p>○「チャレンジ歴史」では、考古学の視点を用いて、歴史的な事象について考えるように工夫されており、興味・関心がもてるようになっている。(p. 38-39)</p>	<p>○コラム「地域に学ぶ」では、石見銀山について記載されており、ヨーロッパでもその名が知られ、戦国大名が争いを繰り広げたことが記載されている。(p. 117)</p> <p>○「歴史を掘り下げる」の「冷戦終結後の近隣諸国との関係」では、竹島問題の経緯と現在の状況について記載されている。(p. 286)</p>	<p>○「『歴史との対話』を未来に活かす」では、学習を振り返り未来に向けて考える活動が設けられ、災害、政治参加、世界平和などについて多面的・多角的に学習できるようになっている。(p. 292-299)</p> <p>○「地域調べ」では、公害克服の歴史について調べよう設定されており、環境問題について考えられるよう構成されている。(p. 288-289)</p>	<p>○見開き2ページごとに掲載された二次元コードからデジタルコンテンツにアクセスできるようにになっている。</p> <p>○各ページ右側の年表で学習する時代を確認でき、巻末の年表とも対応している。</p> <p>○時代の推移や世界の動きを意識できるよう工夫されている。</p>	<p>○文化財資料が多数掲載され、資料を比較したり背景を考えたりする活動を通して、多面的・多角的な視点で歴史的な事象がとらえられるよう工夫されている。(p. 96-99, 138-139)</p> <p>○各編の終わりに「まとめと振り返り」のページを設け、いづどこで何があったかを振り返り、時代を大観し整理できるよう工夫されている。(p. 102-103, 212-213)</p>
Q	<p>○多くの歴史的人物が取り上げられている。その人物が写真や肖像画とともに紹介されており、人物を通して歴史的な事象について学習できるよう工夫されている。(p. 162-163, 222)</p> <p>○本文に多くの注釈をつけ、見開き2ページの本文の周りに、注釈に解説する写真や絵画資料とその解説が掲載され、生徒の理解が深まりやすくなるよう工夫されている。</p>	<p>○各章の初めに、前の章のまとめとこれからの章の予告が示され、「登場人物紹介コーナー」で、その時代の代表的な人物を取りあげている。(p. 68-69, 104-105)</p> <p>○各章のまとめとして、「調べ学習のページ」「復習問題のページ」「時代の特徴を考えるページ」「対話とまとめ図のページ」を使い、時代を大観しやすいう工夫されている。(p. 64-68, 206-210)</p>	<p>○「外の目から見た日本」では、各時代の日本を世界的な視点からとらえ直すことで、学びを深められるよう配慮されている。(p. 116, 143)</p> <p>○「神話が語る国の始まり」について詳しく記載し、神話・伝承から歴史をとらえる視点についても取りあげられており、興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 38-39)</p>	<p>○「もっと知りたい」の「国譲り神話と古代人」では、出雲神話と出雲大社が取りあげられ、関連して荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡についても記載されている。(p. 40-41)</p> <p>○竹島の島根県への編入の経緯と韓国による不法占拠の経緯について詳しく記載され、側注で「李承晩ラインの悲劇」についても記載されている。(p. 173, 263)</p>	<p>○「もっと知りたい」の「エコロジー都市 江戸」では、江戸の水道事情やリサイクルによるエコロジーな生活について記載され、SDGsとの関連に配慮されている。(p. 142)</p> <p>○「調べ学習のページ」では、修学旅行や名字の由来などのテーマを設定し、調べる視点や調査方法などを具体的に学べるよう工夫されている。(p. 64-65, 100-101)</p>	<p>○序章「歴史のとらえ方」の「人物を通して時代をとらえる」では、小学校の社会の学習とのつながりを意識した記載がされている。(p. 16-18)</p> <p>○歴史学習の終わりに、「日本の歴史の由来などのテーマを設定し、調べる視点や調査方法を具体的に学べるよう工夫されている。(p. 288)</p>	<p>○学習の初めに「歴史を学ぶとは」について記載し、我が国の歴史と伝統を意識できるよう工夫されている。(p. 2)</p> <p>○人物について「もっと知りたい」や「人物クローズアップ」で取りあげ、その時代の背景や人々の思いを紹介し、様々な視点から歴史を考えられるよう工夫されている。(p. 62-63, 197, 280-282)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(歴史) No. 4

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
R	<p>○見開き2ページに豊富な絵画や地図などの資料を配置し、行間にも余裕がもたせてあり、読みやすい構成となっている。</p> <p>○「歴史ズームイン」の「日本人の宗教観」や「神話に見る日本誕生の物語」では、日本の成り立ちについて詳しく記載されており、神話や伝承から古代史を読み解くことができるよう工夫されている。(p. 44, 54-55)</p>	<p>○各章の導入「○○の世界へようこそ！」では、絵画資料を掲載し、その時代の特徴や他の時代との違いをとらえることができるよう工夫されている。(p. 26-27, 66-67)</p> <p>○章末で、年表や絵画資料を使って時代を大観し、この時代の最も重要だと思ふ人物について説明することで、歴史的事象に対する理解を深めるよう工夫されている。(p. 94-95, 144-145)</p>	<p>○各章の導入では、鳥の目でイラストを、虫の目で絵画資料を見て歴史を大観できるよう工夫されている。特にイラストでは、人物に視点を当てた構成になっている。(p. 4, 24-27, 64-67)</p> <p>○「歴史ビュー」では、歴史に関わるできごとの意味や背景などについて、多面的・多角的に考察できるよう工夫されている。(p. 133, 213)</p>	<p>○「歴史ズームイン」の「神話に見る日本誕生の物語」の中で、出雲大社や神代神楽が紹介されている。(p. 54-55)</p> <p>○竹島について「明治初期の外交と国境の画定」の本文に記載されており、「歴史ズームイン」の「日本の領土をめぐる問題」の中で編入の経緯や韓国の不法占拠について記載されている。(p. 176-177, 256-257)</p>	<p>○「歴史ズームイン」の「震災の日本史」や「感染症の歴史」では、歴史の記憶と教訓から、未来をどう生きていくのかを考えることができるよう工夫されている。(p. 274-275, 276-277)</p> <p>○「歴史ズームイン」の「より速く、安全に」では、新幹線の開発の歴史を取りあげ、効率化と安全性について考えられるよう構成されている。(p. 264-265)</p>	<p>○「歴史モノサシ」を記載し、年代や時代区分の理解を深め、学習する時代を確認できるよう工夫されている。(p. 8-11)</p> <p>○「地域の歴史を調べてみよう」のページで、調べ学習の方法がわかりやすく説明されている。(p. 150-153)</p>	<p>○「人物クローズアップ」で多くの人物が取りあげられ、その時代の背景や人々の思いについて知り、様々な視点から歴史をとらえることができるよう工夫されている。(p. 117, 217)</p> <p>○巻頭の「日本の美の形」や、「歴史ズームイン」の「浮世絵の影響」で、日本の芸術のすばらしさについて理解が深まるよう工夫されている。(巻頭1-p. 1, 140-141)</p>
S	<p>○A4版で写真や図表が大きくて見やすく、実物大の写真資料も掲載されている。また、紙面に余白が多く、本文や資料が読み取りやすいよう配慮されている。(p. 124-125)</p> <p>○写真や絵画資料が多く掲載され、資料の読み取りとともに、まとめ学習で絵画資料を説明する活動や絵画資料をより詳しく調査する活動を取り入れている。(p. 85, 104-105)</p>	<p>○各章の扉で、世界地図と歴史的事象や遺物を掲載し、日本と世界のつながりを意識できるよう工夫されている。(p. 10-11, 36-37)</p> <p>○各章のまとめで、歴史上の人物になってインタビューに答えたり、漫画で時代を表現したりするなど、様々な表現活動を通して学習内容を深めることができるよう工夫されている。(p. 135, 245)</p>	<p>○「歴史を体験する」では、火おこしや糸紡ぎなどの体験活動や資料をもとにした対話的な活動が紹介され、興味・関心を喚起して学習を深められるよう工夫されている。(p. 34-35, 158-159)</p> <p>○見開き2ページの各タイトルページの終末には、興味・関心を高め、学習内容をさらに深めることができるコラムが多数掲載されている。(p. 47, 83)</p>	<p>○「銀と戦国大名」では、石見銀山の開発と交易、戦国大名の利権争いについて扱われている。4章の導入では世界の様子とともに実物大の石見銀が掲載されている。(p. 82, 87)</p> <p>○竹島について「戦場は中国だった-日露戦争-」の側注で、日本政府が島根県への編入を閣議で決定したことが記載されている。(p. 189)</p>	<p>○「現代の日本と社会」では15のテーマを設け、歴史を今日の課題と結びつけ、よりよい社会の実現に向けて考えられるよう構成されている。(p. 266-267, 276-277)</p> <p>○現代史のまとめの「歴史を体験する」のページで、わが家の100年年表を作成する活動が紹介されており、自分と歴史とのつながりを考えられるよう工夫されている。(p. 278-279)</p>	<p>○エリザベス＝フリーマン、楠瀬喜多、平塚らいてうなどを取り上げ、歴史の中の女性の活躍に着目できるよう工夫されている。(p. 139, 170, 206)</p> <p>○巻頭に世界地図が掲載され、主な史跡や関係都市の位置を確認できるよう構成されている。</p>	<p>○写真資料や絵画資料が数多く掲載され、興味・関心を高めるとともに、資料を読み取る技能が身に付けられるよう構成されている。(p. 66, 164-165)</p> <p>○各章の扉で、テーマに沿った世界の様子がわかる写真や絵画が掲載されており、各地域を比較することで時代の特徴がとらえられるよう工夫されている。(p. 86-87, 160-161)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(歴史) No. 5

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
V	<p>○「国史を学ぶにあたって」で、小学校での既習事項、年代や時代の表し方、歴史的な見方・考え方について記載し、歴史学習にスムーズに入れるよう工夫されている。(p. 10-16)</p> <p>○各章末に日本と世界のできごとを並記した年表を掲載し、日本と世界を比較して考察することができる構成になっている。(p. 116-117)</p>	<p>○授業の最初に「課題」を示し、終末の「考えよう」で学びを深められるよう構成されている。また、「考えよう」にヒントも掲載されている。</p> <p>○各章のまとめ学習として、「新聞にまとめてみよう(近世)」や「ディベートをしてみよう(近代)」のように、様々な方法で自分の考えを表現できるよう工夫されている。(p. 263-264, 404-406)</p>	<p>○最初に「この教科書の課題」で、歴史のとらえ方と歴史を学ぶ意味について記載し、歴史を自分事としてとらえることができるよう工夫されている。(p. 4-5)</p> <p>○コラムを1～2ページに渡って大きく詳しく記載し、本文の内容を深めるとともに、興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 227, 355)</p>	<p>○「鉄砲の伝来と南蛮貿易」で、当時の日本の主な輸出品が銀であり、そのころ開発された石見銀山が当時の世界地図に載るほど有名だったことが記載されている。(p. 190)</p> <p>○竹島の領有権の確立と閣議決定による島根県への編入、戦後の韓国による不法占拠について詳しく記載されている。(p. 303, 423)</p>	<p>○「文化遺産を調べに行こう」では、調べ学習の方法について記載されており、主体的・協働的な学びにつながるよう工夫されている。(p. 175)</p> <p>○巻末に「日本美術図鑑」を掲載し、各時代を代表する美術品が紹介されている。また、それらが見られる美術館・博物館等も紹介されている。(p. 489-536)</p>	<p>○世界各国王朝略年表と歴代天皇の皇位継承図を掲載し、日本の歴史に対する関心が高まるよう工夫されている。(p. 6-9)</p> <p>○巻末に、様々な日本と世界の地図等が掲載され、発展的学習につながるよう工夫されている。(p. 465-488)</p>	<p>○天皇と政権担当者の関係について詳しく記載し、政権担当者の視点だけではない多面的・多角的な視点から歴史をとらえられるよう工夫されている。(p. 153-154, 190-191)</p> <p>○「真岡郵便電信局事件」や「三船殉難事件」などの事件を掲載し、近現代史を見つめ直すきっかけとなるよう工夫されている。(p. 397-399, 400-401)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(公民) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○図表や写真等の資料が多く、資料を活用した学習が意識されている。また、どのような視点で考えるかをマークで示し、主体的・対話的で深い学びにつなげることができるよう工夫されている。(p. 10-11)</p> <p>○「もっと知りたい！」や「未来にアクセス」のコラムでは、生徒の学びを広げたり、深めたりする資料や事例が数多く示されている。(p. 9, 115)</p>	<p>○各章のはじめに導入の活動、探究課題を設定し、章末に「確かめよう」「ふり返ろう」「深めよう」のステップで知識、主体的に学習に取り組む態度、思考・判断・表現を評価する構成になっている。(p. 6-7, 32-35)</p> <p>○毎時間の学習では、写真・図版と学習課題が示され、「チェック」「トライ」の2段階で学習内容の定着が図られるよう工夫されている。(p. 8-9)</p>	<p>○各章のはじめにある「導入の活動」では、市長の選出やコンビニの経営等をシミュレーションを通して学ぶことで、興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 78-79, 130-131)</p> <p>○ICTの日常的な活用を促すために、「デジタルコンテンツを活用しよう」で説明が示され、見開き2ページの小單元ごとに二次元コードがあり、学習のまとめ等ができるよう工夫されている。(p. 3, 巻末3)</p>	<p>○竹島問題について、特設ページを設け、韓国による不法占拠の動き、国際司法裁判所への提訴の動きを、地図や新聞記事を用いて掲載している。(p. 186)</p> <p>○成年年齢が18歳に引き下げられたことを受け、18歳と20歳でできることの違いや、選挙や契約について取りあげ、主権者意識や消費者意識を高めるよう工夫されている。(p. 60, 90, 138)</p>	<p>○終章では、持続可能な社会のために自分にできることをレポートにまとめる構成となっている。テーマ例として地域課題の解決を取りあげ、社会参画につながる内容となっている。(p. 216-221)</p> <p>○他分野・他教科との関連を図った学習のマークが示されており、さらにデジタルコンテンツでその内容を確認できるようになっている。(p. 14)</p>	<p>○カラーユニバーサルデザインに対応し、グラフや地図は、誰にでも見分けられるような色の組み合わせを採用するなど、多様性に配慮されている。</p> <p>○Dマークを表示することで、思考を助けるためのデジタルコンテンツに接続しやすいよう工夫されている。(p. 92, 巻末3)</p>	<p>○思考を深めるために資料等を充実させたり、本時の学習項目と併せてサブタイトルを記載したりする等、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 20)</p> <p>○二次元コードを多用し、自分の興味や関心があるデジタルコンテンツに容易に接続できるようになっており、紙とデジタルの両方から学びにアクセスできるよう工夫されている。(P. 20)</p>
G	<p>○図表、写真等の資料が多く、内容の難しいものには解説も併記されている。また、本文や用語の解説が側注でなされ、理解を支援するよう工夫されている。(p. 62-63)</p> <p>○「公民にアプローチ」では情報収集や思考ツールを使った情報整理の方法が示され、「公民の技」では技能や表現力を高める活動が例示されている。(p. 8-11, 32)</p>	<p>○各章の「学習のはじめに」で、章のおおまかな学習内容と、現代社会の見方・考え方を示し、章末の「HOP!」「STEP!」「JUMP!」の3段階の課題により内容の整理や学習テーマについての考察を深めるよう構成されている。(p. 14-15, 36-38)</p> <p>○見開き2ページが、導入、資料、「学習課題」、本文、「確認」、「表現」の一連の流れで構成されており、見通しをもって学習をすすめることができるよう工夫されている。(p. 16-17)</p>	<p>○各章の「学習のはじめに」では、中学生が学ぶ姿を漫画で取りあげたり、給食センターに関する話題等、生徒の身近な題材を使ったりすることで、興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 40, 130)</p> <p>○1人1台端末の日常的な活用を促すために、「まなびリンク」の二次元コードが各章のはじめやまとめの活動に用いられている。(p. 5, 13)</p>	<p>○竹島問題について、本文に「韓国政府が領土問題の存在を否定」と記載され、竹島の写真とともに側注では、「李承晩ラインの設定」等の竹島問題の経緯について解説がされている。(p. 199)</p> <p>○資料中に海士町の島留学や大田市の中村ブレイスの取組、島根県の鯨食文化の記載があり、地域を通して社会を考えさせる内容となっている。(p. 122, 168, 228)</p>	<p>○各章のまとめにはSDGsとの関連を問うページが設定されており、持続可能な社会の実現に向けて、考えを深めていくよう工夫されている。(p. 38)</p> <p>○見開きの左下部分に、小学校や他分野、他教科と関連する項目を記載することで、各分野、他教科との連携や振り返りを行うことができるよう工夫されている。(p. 22)</p>	<p>○各章の「ウォーミングアップ! 公民」や章末の「学習のまとめと表現」では、自分の考えを記述する所が多くあり、表現力を高めることができるよう配慮されている。(p. 15, 36-38)</p> <p>○ノートを取り方について取りあげ、チェックポイントを意識することで、振り返りや、家庭学習につなぎやすいよう工夫されている。(p. 7)</p>	<p>○SDGsについて、「公民の学習を始めるにあたって」や各章のまとめで大きく取り上げており、持続可能な社会の形成にむけて、主体的に考えを深めるよう工夫されている。(p. I)</p> <p>○導入では、公民で学ぶ主要内容と学習の見通しや学び方、ノートづくり等、生徒が主体的に学習に取り組めるよう丁寧に記載されている。(p. II, 6-7)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(公民) No. 2

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
J	<p>○図表、写真等の資料が大きく示され、対話や資料活用のポイントが示されている。また、本文の補足や解説を側注に示し、社会的事象を多面的にとらえられるよう配慮されている。(p. 51, 104)</p> <p>○「対話」という学習活動が小単元のはじめに設けてあり、ペアやグループでの対話を通じて、本時の学習内容にスムーズにつながることができるよう工夫されている。(p. 4)</p>	<p>○章のはじめに「章の問い」を提示し、「学習を振り返ろう」では、2つのステップで「章の問い」を考える構成となっており、思考ツールの活用や対話を通して主体的・対話的で深い学びの実現に向けて配慮されている。(p. 2-3, 24-25)</p> <p>○見開きの右下には、導入で取り組んだ活動のどの部分と関係しているのかが記されており、本文への理解が深まるよう工夫されている(p. 37)</p>	<p>○各章のはじめのイラストは、学習内容と関連する社会のさまざまな場面をとらえる内容となっており、興味・関心を高め、資料に集中できるよう工夫されている。(p. 30-31, 74-75)</p> <p>○各章・各節のはじめに二次元コードの活用について説明があり、学習内容に関連するデジタルコンテンツにもアクセスできる等、個別最適な学びや1人1台端末の日常的な活用にもつながるよう工夫されている。(p. 2, 4)</p>	<p>○竹島問題について、「日本固有の領土」「不法に占拠」「国際司法裁判所に委ねよう」と韓国に複数回提案」と本文に記載され、側注では、地図で韓国、島根県と竹島の位置関係を示している。(p. 187)</p> <p>○「選挙制度とその課題」では島根、鳥取の参議院選挙の合区についてグラフ等で示しており、今後の選挙制度のあり方や課題について考えられるようにしている。(p. 82)</p>	<p>○「アクティブ公民」では実社会に関連した課題について、多面的・多角的な思考活動や、話し合いによる合意形成等を伴う活動を取り入れ、学習内容を深化できるよう工夫されている。(p. 22, 166)</p> <p>○第5部「課題探究学習」では、各章末にある「探究学習への準備」を活用したレポート作成が提起されており、各章で働かせた現代社会の見方・考え方を生かした考察の例が複数掲載されている。(p. 215-223)</p>	<p>○「18歳への準備」として、「ライフプランから金融を考えよう」では、債権や投資信託の説明があり、金融商品の活用についてもふれている。(p. 154)</p> <p>○小学校社会や他分野との関連だけでなく、地図帳活用のマークを示し、地図帳を活用することで学びを深めることができるよう工夫されている。(p. 13)</p>	<p>○豊富なデジタルコンテンツや、地図帳活用等、教科書本文以外の情報を活用し、学びを深めることができるよう工夫されている。(裏表紙)</p> <p>○「課題探究学習」が第5部として独立しており、既習事項を生かした学習内容が示されている。また、「高等学校への準備」として、「公共」とのつながりを意識できるように工夫されている。(p. 223)</p>
0	<p>○図表、写真等の資料が多く、本文中のことがらには関連する資料番号や教科書のページが記載されている。また、ページ下に「各節の問い」が示され、授業を進めるうえで資料や問いを意識できるよう工夫されている。(p. 10)</p> <p>○章末の課題や「アクティビティ」では思考ツールを用いた情報整理や思考の流れが示され、場面に応じた思考活動ができるよう工夫されている。(p. 81, 85, 127, 巻末2)</p>	<p>○「章のまとめをしよう」では、新聞記事やニュースを題材とした「ニュースを見方・考え方から見てみよう」の項目があり、現実の課題に現代社会の見方・考え方を生かすよう工夫されている。(p. 22)</p> <p>○各単元に「学習課題」と「見方・考え方」が示してあり、授業で着目するポイントや、何について考えるのかについて見通しをもつよう工夫されている。(p. 8)</p>	<p>○各編章のはじめに身近な例を描いた漫画を用いて学習内容との関係について気づきを促し、意見の交流を通して学習への興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 6-7)</p> <p>○「15歳は『子ども』？それとも『大人』？」や、「少年法における18歳と19歳のあつかい」で、生徒の年齢に近い事例を扱い、主体的な学びができるような題材を示している。(p. 72-73, 109)</p>	<p>○竹島問題について、「日本固有の領土」「不法に占拠」「国際司法裁判所で解決することを提案」と本文に記載がある。特設ページでは、竹島をめぐる歴史的背景が記載され、「竹島の日」式典の写真が掲載されている。(p. 194-196)</p> <p>○「チャレンジ公民」では章の学習内容に関わる課題を考察・構想し、町づくりや社会保障等について主体的に考えさせる内容になっている。(p. 34)</p>	<p>○巻頭で地理・歴史とのつながりを写真を用いて示し、巻末で高校の公民科とのつながりについて、公民で学習した内容を具体的な写真や事例を用いて示している。(巻頭3, 巻末1, 3)</p> <p>○中学生の活動や中学生に関連ある事例を示し、生徒が公民の学習と自分とのつながりを実感できるような資料構成になっている。(巻頭1-2, 14, 54)</p>	<p>○「まちのバリアフリーを探そう」では実際に点字が打刻されており、学習内容への理解を深めることができるよう工夫されている。(p. 56-57)</p> <p>○巻末には、「用語解説」とともに、生徒が混同しやすい語句の違いを解説する「類似用語集」を掲載し、理解しやすいよう工夫されている。(p. 258-261)</p>	<p>○二次元コードでアクセスしたポートフォリオによって、学びの記録や思考の変容を把握できるよう工夫されている。(p. 7)</p> <p>○終章の「私たちの課題」では、各章で学習した内容をもとに「テーマの設定」「資料の収集と読み取り」「考察と構想」「まとめと評価」を行うことで、社会科で学習した内容のつながりを意識することができるよう工夫されている。(p. 222)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
Q	<p>○図表、写真等の資料が大きく、見やすく、一目で資料を確認できたり、裏表紙に我が国の領域の地図が載っていたりし、資料や地図を調べやすいよう配慮されている。(p. 2, 裏表紙)</p> <p>○「アクティブに深めよう」では意見の整理方法や新聞の見方等が示されており、身に付けた技能を高められるようになっている。(p. 40-41, 94-95)</p>	<p>○各小単元で内容に関する資料と学習課題が示されるとともに、「ここがポイント！」として本時のまとめを示し内容の定着を促すよう工夫されている。(p. 2-3)</p> <p>○章の終わりの「学習のまとめ」で最重要語句を確認し、「学習の発展」では課題を複数設定し約400字でまとめることで、学習内容の定着を図ることができるよう工夫されている。(p. 42)</p>	<p>○「もっと知りたい」では、既習事項について、過去の歴史や文化等を多様な視点から解説することで、学びを深めるよう工夫されている。(p. 14-21)</p> <p>○教科書に登場するキャラクターのつぶやきや、「やってみよう」の課題により、授業において個人やグループで考えたり話し合ったりするためのポイントが示されている。(p. 7)</p>	<p>○竹島問題について、本文および特集ページにて、竹島問題の概要や、韓国政府の見解、それに対する日本の指摘と反論も含め記載されている。(p. 170-171)</p> <p>○統合災害情報システム「DiMAPS」に関する資料や「地方自治と防災・防衛」の記載等、防災行政の取組について多面的に記載されている。(p. 4, 116-117)</p>	<p>○「学習を深めるために」では、「ミニ知識」や教科書で取りあげている人物が一覧に示され、歴史の学習で登場した人物名も多く取りあげられている。(巻頭vii)</p> <p>○「課題の探求」ではディベートについて示され、「ディベート進行の例」「ディベート実践例」によって、活動する際の興味を喚起するとともに実践時のサポートにも配慮されている。(p. 218-223)</p>	<p>○全72単元が通し番号で示してあり、学習の進度を把握しやすいよう工夫されている。</p> <p>○巻末の特集では、日本の伝統的工芸品が地図とともに紹介され、日本の技術や伝統について考えることができるよう工夫されている。(p. 260-261)</p>	<p>○一つ一つの資料や写真を大きく掲載し、本文の行間も広く、生徒が学習に取り組みやすいよう配慮されている。(p. 11)</p> <p>○巻頭・巻末の写真やコラム「もっと知りたい」では、日本の技術や伝統・文化について写真とともに説明され、関心を高めることができるようになっている。(p. 巻頭i, 18-19)</p>
R	<p>○図表、写真等の資料が多く、本文中のことがらに関連する資料番号や教科書のページが記載されている。各ページに節の課題が記載されており、毎時間の課題解決を意識して学習に臨むことができるよう工夫されている。(p. 14)</p> <p>○巻末の「学習資料」では、「法令集」や「用語解説」に紙面を多く使って詳しく記載し、生徒の主体的な学習に向けて配慮されている。(p. 218-252)</p>	<p>○各章を「課題をつかむ」「課題について調べる」「課題についてまとめる・表現する」という、問題解決型の学習を意識した構成とし、生徒の主体的・対話的で深い学びを促すよう工夫されている。(p. 4-5)</p> <p>○「入り口」で章の学習の動機付けをし、「これから」で章の学習を振り返り、さらに学びを深める課題を設け、章を通した学習が展開できるよう工夫されている。(p. 118-119, 168-169)</p>	<p>○各章の冒頭には、「どうして○○を学ぶの？」が設定されており、学習意欲が高まるよう工夫されている。(p. 38)</p> <p>○「やってみよう」では、個人やグループで取り組む活動が設定されている。「人生をデザインしよう」では、ライフプランを立てながら経費等をシミュレーションして経済とのかかわりを学ぶことができるよう工夫されている。(p. 166-167)</p>	<p>○竹島問題について、特設ページを設け、キャラクターが問いや疑問をつぶやくことで、視点をもって考えることができるよう工夫されている。(p. 190-193)</p> <p>○法の下の平等やさまざまな人権課題についての本文や特設ページを参考に、差別のない社会を築くにはどうしたらよいか考えられる内容となっている。(p. 58-63)</p>	<p>○地理・歴史で学習した内容について、小単元名の下にアイコンと内容を示し、公民の学習と地理、歴史の学習を結びつけることができるよう工夫されている。(p. 46, 52)</p> <p>○中学生の起業や生徒に身近なサブスクリプション・サービスについて例を示し、経済社会と自分とのかかわりについて思考が広がるよう工夫されている。(p. 14, 133)</p>	<p>○「なぜ『公民』を学ぶのか」では、各分野の関係を概念図で示すことで、分野間のつながりを意識して公民の学習に臨めるよう工夫されている。(巻頭③, p. 1)</p> <p>○特設ページでは、日本の伝統文化を分類して取りあげ、文化の系統を踏まえて学習できるよう工夫されている。(p. 214-215)</p>	<p>○巻頭の「なぜ『公民』を学ぶのか」や各章の冒頭に「どうして○○を学ぶの？」のコラムがあり、教科書全体を通して、生徒の学習意欲を高めるよう工夫されている。(p. 巻頭③, p. 1)</p> <p>○見開きの左上に、本時のテーマ、節の課題、本時の課題が一目でわかるように書かれており、単元を通した学びが意識されている。(p. 14)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(地図) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○A版176ページで、大きな紙面になっている。UDフォントや縁取り文字を使用し、不要な陰影や立体感が少なく淡い彩色を採用している。</p> <p>○「この地図の活用方法」では、一般地図の見方や、主題図の特徴について説明されており、地図を使った学習に向かいやすいよう工夫されている。(p. 5-6)</p>	<p>○巻末では、人口や農林水産業、エネルギー等のテーマごとに世界の様子と日本の様子を対比できる構成となっており、それぞれの比較を通して、考察できるよう工夫されている。(p. 137-148, 151-152)</p> <p>○「ジャンプ」コーナーを設け、1つの資料を他のページの資料と関連付けて考えることができるよう工夫されている。(p. 13)</p>	<p>○Bee's eyeでは、地図を深く読み取るためのヒントとなる問いが設定され、生徒が取り組みやすいよう工夫されている。(p. 11-12)</p> <p>○デジタル地球儀や世界の景観がVRで体感できる等のデジタルコンテンツが多彩で、生徒の興味・関心に応じて情報にアクセスできるよう工夫されている。(p. 11)</p>	<p>○中国地方では、竹島の拡大図が掲載され、日本周辺の地図では、航空写真とともに日本固有の領土であることや領土問題に関する記載がある。(p. 75, 171)</p> <p>○各ページでキャラクターの吹き出しで示されている問いに対して、二次元コードを通して解答例にアクセスでき、家庭学習でも利用できるよう工夫されている。(p. 11-12)</p>	<p>○日本の自然災害について、見開き2ページで整理されている。また、ハザードマップと豪雨災害の浸水域の主題図がわかりやすく並記してあり、防災について考えることができるよう工夫されている。(p. 135-136)</p> <p>○歴史と治水に関して、大きく取り上げており、地理と歴史のつながりを感じることができるよう工夫されている。(p. 87-88)</p>	<p>○世界の各州において各種資料が見開き2ページに整理されており、情報を整理しやすいように工夫されている。(p. 27, 28)</p> <p>○巻末には、世界の経済・国際関係に関する主題図や資料が整理されており、公民的分野の学習につなげることができるよう工夫されている。(p. 153-154)</p>	<p>○キャラクターの吹き出しによって学習課題を示し、豊富なデジタルコンテンツでその課題を追究できるとともに、生徒が主体的に課題追究できるよう工夫されている。</p> <p>○見開き2ページで諸資料を整理し、世界と日本の様子を対比できるページ構成にする等、比較を通して学習できるよう工夫されている。</p>
J	<p>○A版198ページで、大きな紙面になっている。UDフォントや縁取り文字を使用し、濃淡がはっきりした彩色を採用している。</p> <p>○「この地図帳の使い方(1)」では、小学校で学習したことを振り返ったり、地図の種類や地図帳の見方・使い方を確認したりと、地図の使用法が具体的に示されている。(p. 5-6)</p>	<p>○各地域の主題図は可能な限り同縮尺で示されている。また、日本の主題図において、どの地方でも取り上げるテーマが共通しており、比較、考察しやすいよう工夫されている。(p. 26)</p> <p>○「地図で発見！」のコーナーが設けてあり、具体的な問いにより地図や資料を読み取ることができるよう工夫されている。(p. 39)</p>	<p>○立体的かつイラストを配した鳥瞰図により、地域的な特色や人々の生活等を捉えやすいよう工夫されている。(p. 29-30)</p> <p>○「世界の生活・文化」や「日本の歴史・生活・文化」の項目において、写真やイラストの種類が豊富で、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 19-22, 173-174)</p>	<p>○竹島の標高色別の拡大図や航空写真が掲載され、領土問題に関する記載がある。また、朝鮮半島の大判地図や大陸から見た日本地図など、位置や距離が掴みやすいよう工夫されている。(p. 33-36, 81, 95)</p> <p>○二次元コードから、学習内容に関わる多くの資料が閲覧でき、家庭学習に利用できるよう工夫されている。(p. 4)</p>	<p>○巻頭で持続可能な社会という視点で複数のテーマを設け、地図や主題図ならびに写真資料を掲載することができるよう工夫されている。(p. 8-14)</p> <p>○世界のすべての地域の資料に「日本との結びつき」を取り上げ、各地域と日本との関係について追究しやすいよう工夫されている。(p. 40)</p>	<p>○「持続可能な社会を考える統計」や「日本の市と人口」など、様々な統計資料を9ページにわたって掲載している。(p. 175-183)</p> <p>○日本の地形、人口等のページには主題学習が設定され、生徒がテーマをもって学習できるよう工夫されている。(p. 155-174)</p>	<p>○地図の見方や読み取り方を示すとともに、「地図で発見！」のように生徒が取り組みやすい問いを設定する等、授業や家庭学習において主体的に地図を活用できるよう工夫されている。</p> <p>○各地域において地図だけでなく、主題図やグラフ等の資料が豊富で、多くの資料から課題を追究できるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(数学) No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○「大切にしたい数学の学び方」や「この本の構成と使い方」では、生徒が見通しをもち、主体的に学習できるよう教科書の使い方等が丁寧に記載されている。(1年巻頭-p. 10)</p> <p>○章末の問題はA、Bの2段階で構成されている。また巻末の補充問題には難易度の異なる問題が設けられ、一人一人の学習状況に応じて取り組めるよう配慮されている。(2年p. 32-34, 217-228)</p>	<p>○1年0章導入の「九九表のきまりを見つけよう」で素数等について学んだあと「正負の数」の学習へつながっており、内容の配列が工夫されている。(1年p. 12-18)</p> <p>○章や節の最初に、これからの学習と関連した日常の課題が示され、解決の見通しをもたせ、章や節の学習につながるよう工夫されている。(2年p. 35, 49)</p>	<p>○「数学のまど」「数学×伝統工芸士」では、身の回りの写真を使い、数学と日常生活が関連付けられ、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(1年p. 28, 186-187)</p> <p>○「深い学び」では、活用問題が設けられ、学習内容と身の回りの事象との関連が図られるよう工夫されている。(3年p. 203)</p>	<p>○「もっと数学をつなげよう」には、「補充の問題」「数学の自由研究」が設けられ、生徒一人一人に合わせた学習が展開できるよう工夫されている。(3年p. 225-270)</p> <p>○巻末に、各章の学習で働かせた数学的な見方・考え方を振り返るコーナーを設定し、既習事項を確認できるよう工夫されている。(1年p. 250-255)</p>	<p>○「数学の自由研究」ではSDGsを題材に取り上げ、生徒が社会問題の解決に数学を活用できるよう配慮されている。(2年p. 233)</p> <p>○島根県の「まちづくり条例」を題材に取り上げ、住みやすいまちづくりに向け、目的意識をもって生徒が数学を活用できるよう工夫されている。(1年p. 189)</p>	<p>○仕事の中で数学を活用している人を紹介し、生徒も数学を用いた日常の問題解決を体験できるよう工夫されている。(3年p. 122-123)</p> <p>○正多面体を作ることができる紙教具が用意され、操作を通して立体図形の特徴を確認されるよう工夫されている。(1年p. 195, 313-318)</p>	<p>○マークや色分けによって内容や難易度がとらえられ、キャラクターからのアドバイスで、生徒が解決の見通しをもてるよう配慮されている。(2年p. 8, 9, 15)</p> <p>○学習のめあてや、解決までの過程が具体的に示されており、生徒が目的意識や見通しをもって学習できるよう配慮されている。(1年p. 12-13)</p>
B	<p>○「この教科書の使い方」で学習の流れを説明し、生徒が見通しをもって学習したり、問題発見・解決の過程を意識したりできるよう工夫されている。(1年p. 4-11)</p> <p>○ページの右端に「プラス・ワン」として補助問題と解答が示してあり、個に応じた学習に対応できるよう工夫されている。(1年p. 39-40)</p>	<p>○各章の1節は「考えよう」で課題を提示し、「めあて」「活動」という流れで構成している。生徒が見通しをもって学習できるよう工夫されている。(1年p. 102-103)</p> <p>○1年1章「数の世界のひろがり」で、素数等について学んだあと「正の数、負の数」の学習につながるよう、内容の配列が工夫されている。(1年p. 12-17)</p>	<p>○章の扉で、これから学ぶ内容を日常場面から発見できるようにしたり、章末の「活用・探究」では、学習した内容を身近な場面に活用する問題を掲載したりする等、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(2年p. 66-67, 96)</p> <p>○「学びにプラス」では高校数学とのつながりを意識できる題材を取り上げ、生徒が興味・関心をもてるよう工夫されている。(3年p. 43)</p>	<p>○巻頭に数学的な見方・考え方の具体例を挙げ、生徒が数学的な見方・考え方を働かせて学習できるよう工夫されている。(1年p. 9)</p> <p>○「もっと数学の世界へ」では、「課題学習」「補充問題」「総合問題」などが設けられ、生徒が様々な問題に取り組めるよう工夫されている。(2年p. 201-205, 218-227)</p>	<p>○「社会にリンク」では、仕事の中で数学を役立てている人へのインタビューを掲載し、生徒が実生活と数学とのつながりを感じたり、数学を学ぶ意義について考えたりできるよう工夫されている。(1年p. 163)</p> <p>○「MATHFUL」に数学に関する資料を掲載し、生徒が数学と他教科等との関連について理解を深められるよう工夫されている。(3年p. 242-253)</p>	<p>○紙教具が準備され、実際に観察、操作したり、試行錯誤したりして思考力、判断力、表現力等が育まれるよう配慮されている。(1年p. 付録、3年p. 付録)</p> <p>○付録「1年のまとめ」「2年のまとめ」があり、切り取って次の学年でも活用できるよう工夫されている。(1, 2年付録p. 1-4)</p>	<p>○章の最後の節では、巻頭の「数学の世界へようこそ」の流れに沿って、生徒が問題発見・解決の過程で学習できるよう工夫されている。(3年p. 7-9, 69-70)</p> <p>○「活用・探究」では、生活をよりよくする視点から課題が設定されており、実生活で数学を活用しようとする態度が育まれるよう工夫されている。(2年p. 96)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(数学) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
E	<p>○学習に関連する既習事項を確認できるよう「ふりかえり」のページを設けている。生徒が既習事項を生かしながら学習を進められるよう工夫されている。(1年p.8)</p> <p>○章末のまとめでは、「基本」「応用」「活用」と問題を分けたり、巻末に計算問題や復習問題を設けたりし、学習内容が定着するよう工夫されている。(2年p.34-37)</p>	<p>○基本の作図を学習した後、「平行線と面積」の内容を扱っており、生徒が作図と図形の性質の関連をとらえられるよう工夫されている。(1年p.184-186)</p> <p>○「図形の性質の調べ方」の単元末に図形の性質のまとめを掲載し、証明の根拠となることがらを確認できるよう工夫されている。(2年p.138-139)</p>	<p>○「Tea Break」では、学習内容を深めたり広げたりする興味深い内容を取り上げ、数学のおもしろさや有用性を実感できるよう工夫されている。(3年p.62)</p> <p>○立体の投影図について生徒の理解を支援する動きのある図をページの右上に掲載し、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(1年p.209-229)</p>	<p>○協働学習のページ「さらなる数学へ」には、数学的な見方・考え方の具体例や学習の進め方がまとめられ、生徒が確かめられるよう工夫されている。(2年p.217-227)</p> <p>○箱ひげ図について基礎的な内容を学習した後、複数の箱ひげ図を比較し、話し合ったり、判断したりする課題を設定し、学んだことを活用できるよう工夫されている。(2年p.201-215)</p>	<p>○各節の導入や「章のまとめの問題」の「活用」では、環境等に関する問題を取り上げている。問題を解決することを通して、生徒が学習内容と実生活との関連を意識できるよう工夫されている。(3年p.136)</p> <p>○数学と他教科等との関連について紹介し、生徒が数学のおもしろさや有用性を実感できるよう工夫されている。(1年p.118, 3年p.124)</p>	<p>○巻末に「表現する力を身につけよう」を設け、レポートや発表のしかたを例示し、生徒に数学のおもしろさが伝わるよう工夫されている。(1年p.282-285)</p> <p>○巻末には「図形の性質のまとめ」が折込で設けられ、必要に応じて振り返ることができるよう配慮されている。(3年p.313)</p>	<p>○章の学習後「できるようになったこと」をチェックしたり、「さらに学んでみたいこと」を記述したりする欄が設けられており、学びを振り返ることができるよう工夫されている。(2年p.141)</p> <p>○教科書の余白に数学的な見方・考え方を示し、生徒が数学的な見方・考え方を働かせることを意識できるよう工夫されている。(1年p.151)</p>
G	<p>○「例題」と「問」の間に、類似した問題「たしかめ」を設け、スモールステップで学習内容を習得できるよう配慮されている。(1年p.238)</p> <p>○1年の1章「整数の見方」では、素数と素因数分解について扱い、数の見方を広げてから、2章「正の数、負の数」につないでおり、内容の構成が工夫されている。(1年p.13-22)</p>	<p>○各章の冒頭に「□□を学習する前に」が設けられ、これから学習する内容に関連する既習事項を確認できるようにし、生徒がその後の学習に取り組みやすくなるよう配慮されている。(3年p.78)</p> <p>○学習した内容を簡潔にまとめた「学習のまとめ」が章末に設けられており、その後の問題演習につながるよう配慮されている。(3年p.74)</p>	<p>○章の冒頭に数学に関わる話題を取り上げ、生徒が興味・関心をもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。(2年p.13)</p> <p>○社会で活躍している人へのインタビュー「数学しごと人」を掲載し、実社会で数学が役立っていることや数学を学ぶ意義が実感できるよう工夫されている。(2年p.146-147)</p>	<p>○巻頭に「大切にしたい数学的な見方・考え方」の具体例を挙げ、生徒が数学的な見方・考え方を働かせて学習できるよう工夫されている。(全学年p.6-9)</p> <p>○学力調査等でつまずきの見られる内容の問題について、誤答を例示し、解が正しくない理由を考えることで、意味理解が深まるよう工夫されている。(3年p.18)</p>	<p>○巻末の「数学ライブラリー」では、数学に関連する実生活の出来事や他教科、歴史等を取り上げ、生徒が数学の有用性を実感できるよう工夫されている。(3年p.249-259)</p> <p>○SDGs「13 気候変動に具体的な対策を」に関連した題材を取り上げ、持続可能な社会の実現に向けて数学を活用できるよう工夫されている。(3年p.252-253)</p>	<p>○各学年、1章を終えたところで、ノートの効果的な活用例を示し、家庭学習や自主学習につながるよう工夫されている。(2年p.42-43)</p> <p>○「章の問題」では、問いごとに生徒が記号で自己評価し、繰り返し学習ができるよう工夫されている。(1年p.245-247)</p>	<p>○「学びのマップ」が設けられ、小学校の学習内容を含め既習事項の振り返りを効果的に行うことができるよう配慮されている。(3年p.264-275)</p> <p>○章内や章末の「数学の広場」では、学習内容を広げたり、深めたりするコラム等を掲載し、生徒が数学の有用性や実社会とのつながりを意識できるよう工夫されている。(3年p.118)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(数学) No. 3

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
L	<p>○小学校や下学年の学習内容を確認できる「学びをふりかえろう」が設けられ、生徒が自分で学習を確かめられるよう配慮されている。(1年p. 248)</p> <p>○「学びをたしかめよう」では、「□□を理解していますか」という言葉が示されたり、チェック欄を設けたりして、その章で学習したことを振り返ることができるよう工夫されている。(3年p. 178-179)</p>	<p>○「□□の利用」の節には「ステップ」に沿って、問題を設定し、解決し、考えを深める過程が示され、主体的・対話的で深い学びとなるよう工夫されている。(2年p. 157-159)</p> <p>○SDGsに関する題材を取り上げ、社会問題の解決に数学を用いて考えられるよう配慮されている。(2年p. 187)</p>	<p>○数学を学ぶよさを実感できるように、生活に役立つことのできる数学の題材を掲載しており、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(2年p. 116-117)</p> <p>○吹き出しを用いて本文を補ったり、生徒に気づきを促したり、生徒が解決の見通しをもって取り組めるよう配慮されている。(1年p. 88-89)</p>	<p>○証明の学習の中で、図形の性質が証明に活用できることを紹介し、証明に必要な条件や図形の性質の理解が深まるよう工夫されている。(2年p. 131)</p> <p>○巻末の「力をつけよう」では、発展的な問題や過去の公立高等学校の入試問題を掲載し、生徒が様々な問題に取り組めるよう工夫されている。(2年p. 199)</p>	<p>○「節のとびら」「数学ライブラリー」では、身の回りの題材や他教科等と関連する題材を取り上げ、数学のよさを感じられるよう工夫されている。(2年p. 36-37, 186)</p> <p>○「学びをいかそう」では、身の回りの課題や、数学を発展・深化させる課題を取り上げ、生徒が数学の有用性やおもしろさを感じる事ができるよう工夫されている。(2年p. 212-213)</p>	<p>○問題が「例」「例題」「問」と段階的に設定され、問題を解きながら生徒の理解が深まるよう工夫されている。(1年p. 94-95)</p> <p>○ノートのとり方を例示し、学習したことや考えたことが整理され、生徒の理解が深まるよう工夫されている。(1年p. 8-9)</p>	<p>○「たいせつな考え方」について、文に下線を引くとともに、「標識」を教科書右側余白に示すことで、生徒が考え方を繰り返し働かせることができるよう工夫されている。(1年p. 6-7, 196)</p> <p>○「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」を設け、協働的に学ぶ活動を通して、生徒の表現力が育成されるよう工夫されている。(1年p. 59)</p>
N	<p>○全国学力調査等で課題のあった問題について、3ページを使用して丁寧に説明し、理解が深まるよう配慮されている。(1年p. 122-124)</p> <p>○各章ごとに「問題A」「問題B」「学んだことを活用しよう」が設けられ、一人一人の生徒に合わせて問題に取り組むことができるよう工夫されている。(1年p. 58-60)</p>	<p>○各章の学習に入る前に、「□□の学習の前に」という復習問題を扱ったページが設けられ、既習事項の確認とこれからの学習への準備ができるよう構成が工夫されている。(3年p. 45)</p> <p>○その時間の学習のめあてや、解決に向けた具体的な活動が示され、生徒が理解を深めながら学習できるような配慮されている。(1年p. 38)</p>	<p>○身近な問題を取り上げ、生徒が興味・関心を高め、数学的に解決する数学的活動を通して学び、数学のよさが実感できるような工夫されている。(2年p. 194)</p> <p>○「標本調査」では、パソコンの表計算ソフトを用いた乱数表が提示され、表計算ソフトの有用性を学べるよう工夫されている。(3年p. 242-243)</p>	<p>○「学びの自己評価」には、数学の学びにおいて大事にしたいことが整理されており、チェックすることで自己の学習の状況を確認できるような工夫されている。(全学年巻末)</p> <p>○「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」では、発展的な問題を掲載し、思考力、判断力、表現力等を育成することができるような工夫されている。(1年p. 269-291)</p>	<p>○巻末の「数学旅行」では、実生活、他教科、歴史等を取り上げ、数学の有用性や楽しさを感じる事ができるような工夫されている。(3年p. 253-264)</p> <p>○SDGsに関する題材を取り上げ、数学の学習を通してこれらの社会問題を考えられるよう配慮されている。(3年p. 256)</p>	<p>○「空間図形」において仁摩サンドミュージアムの写真が掲載され、生徒が数学を身近に感じられるよう工夫されている。(1年p. 190)</p> <p>○1年と3年の巻末に授業で使用する紙の教具が付いており、操作活動を通して、原理や性質を実感しながら学ぶことができるよう工夫されている。(1年・3年巻末)</p>	<p>○生徒キャラクターの対話を通して、基礎的な内容を学びながら数学的な見方・考え方が働くよう工夫されている。(1年p. 149)</p> <p>○全国学力調査等で課題となっている「説明すること」に対応するための問題を取り上げ、数学的に説明をする力が付くよう工夫されている。(1年p. 243, 2年p. 167, 3年p. 133)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(数学) No. 4

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
0	<p>○見開き2ページを1つの小節とすることを基本とし、学習課題、めあてを示し、生徒が見通しをもって学習できるよう配慮されている。(3年p. 58-59)</p> <p>○「問」や節末の「基本の問題」は、「例」と同程度の問題となっており、基礎的・基本的な内容が確実に定着するよう配慮されている。(1年p. 49, 51)</p>	<p>○各章の直前に「次の章を学ぶ前に」という復習問題のページが設けてあり、既習事項の確認と次の学習への準備ができる構成となっている。(1年p. 115)</p> <p>○「学び合おう」では、日常生活や社会の事象、数学の事象から問題を見出し、解決する過程が丁寧に示され、主体的・対話的で深い学びとなるよう工夫されている。(3年p. 36-37)</p>	<p>○「数学のたんけん」では、学んだ内容に関連した話題を掲載し、知識を補充しながら、興味・関心を高めることができるよう工夫されている。(3年p. 122)</p> <p>○各章のはじめには、実生活の場面を表す写真やイラストとそれに関連した疑問が吹き出しで掲載され、これから始まる学習への興味・関心を高めることができるよう工夫されている。(2年p. 168-169)</p>	<p>○まちがしやすい問題では、「まちがいの例」を提示し、正しくない理由を説明することで、意味理解をより深められるよう工夫されている。(1年p. 79)</p> <p>○「身近なことから」「次の課題」では、日常生活や社会の事象、数学の事象から問題を見出し、解決する数学的活動を通して、数学のよさが実感できるよう工夫されている。(2年p. 86, 3年p. 47)</p>	<p>○巻末の「数学マイトライ」では、実生活、他教科、歴史、SDGs等に関連する数学の内容を取り上げ、生徒が数学の有用性やおもしろさを感じることができるよう工夫されている。(2年p. 201-215)</p> <p>○「身近なことから」では、日常の事象について生徒が協働的な学びを通して解決できるよう工夫されている。(3年p. 174-175)</p>	<p>○巻末に「プログラムと数学」が設けてあり、Scratchによる4つのプログラミングが体験できるよう工夫されている。(2年p. 214-215)</p> <p>○巻末に「補充問題」「総合問題」「活用の問題」「ステップアップ」が設けられ、生徒一人一人の学習状況に応じて取り組むことができるよう配慮されている。(3年p. 234-261)</p>	<p>○学習過程で働かせる数学的な見方・考え方を「大切な見方・考え方」として教科書余白に示し、生徒が意識して繰り返し働かせることができるよう工夫されている。(1年p. 99)</p> <p>○切り離してノートに貼ることもできる「ふり返りシート」「対話シート」が巻末に用意されており、協働的な学びを通して、考えを深めることができるよう工夫されている。(2年p. 245-259)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(理科) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○紙面の下部に「学びのフローチャート」が示されており、生徒自身がどの学びを行っているのか自覚できるよう工夫されている。</p> <p>○多くの観察、実験に二次元コードがついており、動画によって実験の手順を確認できるとともに、観察・実験の流れが1ページにまとめられており、生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう配慮されている。(1年p. 127, 2年p. 17, 3年p. 35)</p>	<p>○単元及び章の初めと終わりに、単元や章に関する本質的な問いかけ「Before & After」があり、生徒が学習前と学習後の考えの変容を自覚できるよう工夫されている。</p> <p>○単元に1つ程度「じっくり探究」の節が設定され、理科の見方・考え方や生徒の対話の具体例を示し、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されている。(1年p. 84-89, 2年p. 128-133, 3年p. 16-21)</p>	<p>○単元扉や章扉の「スタート動画」、節の初めの「レッツスタート!」には、身近な題材が取り上げられ、生徒が問題に気づき、目的意識をもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。(1年p. 91-92, 2年p. 171-172, 3年p. 47-48)</p> <p>○「歴史にアクセス」では、漫画等で科学史における重要な人物や発見を掲載し、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(1年p. 130, 2年p. 47, 3年p. 61)</p>	<p>○単元や章末に「確かめ問題」「活用問題」や「例題」が掲載されるとともに、デジタルコンテンツによって答え合わせができる機能があり、生徒が家庭学習に取り組みやすいよう配慮されている。(1年p. 134-136, 3年p. 122-124)</p> <p>○1年では「ジオパークへ行こう」に知夫赤壁、2年では「金属利用の歴史」に雲南省のたたら製鉄が掲載され、地域の資源に興味をもてるよう工夫されている。(1年p. 248-249, 2年p. 61)</p>	<p>○各節中のコラム「まちなか科学」「お仕事図鑑」「社会につながる科学」があり、学習内容に関連させて適切に配置されており、日常生活や社会と学習内容が結びつくよう工夫されている。(1年p. 79, 2年p. 29, 3年p. 187)</p> <p>○巻頭に「科学の本だな」があり、生徒が興味・関心をもち、さらに学びを深められるよう工夫されている。(1年p. 5, 2年p. 5, 3年p. 3)</p>	<p>○「?に対する自分の考えをまとめよう」で、各節の課題に対する結論を自分の言葉で表現する構成になっており、思考力、判断力、表現力等を高められるよう工夫されている。(1年p. 20, 2年p. 19, 3年p. 15)</p> <p>○周期表に元素の英語表記や利用例等が図絵とともに表記されており、興味・関心高められるよう工夫されている。(2年p. 10-11)</p>	<p>○「Before & After」や「?に対する自分の考えをまとめよう」があり、生徒が自分の考えを自分の言葉で表現できるよう工夫されている。(1年p. 20, 2年p. 19, 3年p. 15)</p> <p>○「科学の本だな」、コラム「まちなか科学」等、「社会につながる科学」によって、一人一人の興味・関心に応じて学習した内容を深められるよう工夫されている。(1年p. 5, 79, 2年p. 85, 3年p. 307)</p>
B	<p>○各単元の初めに見開きで既習事項が図や写真を用いてわかりやすく掲載されており、生徒が新たな学習に向かいやすくなるよう工夫されている。(1年p. 10-11, 2年p. 8-9, 3年p. 8-9)</p> <p>○本文は端的な文章で書かれ、ページ周辺部の資料等が精選されているため、学習内容の要点をつかみやすくなっている。</p>	<p>○観察・実験では、「目的」とは別に「着目点」が示され、具体的に何を明らかにしたいのかを明確にしてあり、見通しをもって観察・実験に臨めるよう工夫されている。(2年p. 85)</p> <p>○「問題を見つけよう」「計画を立てよう」「話し合おう」など生徒の具体的な会話の場が掲載されており、対話しながら協働的に学びを深められるよう工夫されている。(1年p. 26, 2年p. 98, 3年p. 39)</p>	<p>○各単元末に「探究活動」があり、学習した単元に関連するテーマが紹介されており、生徒自身で探究を進められるよう工夫されている。(1年p. 64-65, 2年p. 148-149, 3年p. 76-77)</p> <p>○各章にコラム「Science Press」「科学のあしあと」があり、科学の歴史、科学と日常生活や社会とを関連付けて考えることで、生徒が興味・関心高められるよう工夫されている。(1年p. 99, 2年p. 59, 3年p. 68)</p>	<p>○「情報収集・整理のしかた」では、インターネットやコンピュータを利用する際のルールや注意を喚起し、情報を正しく安全に利用できるよう工夫されている。(1年p. 270)</p> <p>○1年では、火山岩と深成岩のつくりに関わり、日御碕の流紋岩が、「ジオパークを見学してみよう」に隠岐が紹介されており、地域の資源に興味をもてるよう工夫されている。(1年p. 215, 280)</p>	<p>○「くらしの中の理科」では、学習内容が日常生活や社会で活用されている話題が紹介され、生徒の興味・関心高められるよう工夫されている。(1年p. 101, 2年p. 212, 3年p. 19)</p> <p>○「Professional」では、理科やSTEAMに関連した職業が取り上げられ、生徒が将来に向けて職業観を育めるよう工夫されている。(1年p. 63, 2年p. 255, 3年p. 318)</p>	<p>○1年巻末では、「見方の例」「考え方の例」を参考にし、探究を進めることで、理科の見方・考え方を働かせて課題を解決できるよう工夫されている。(1年p. 268-273)</p> <p>○1・2年に「生物を見に行こう!」、全学年に「行ってみよう!科学館・博物館」があり、校外施設等と連携が図れるよう工夫されている。(1年p. 292-293, 2年p. 300-301, 3年p. 336-337)</p>	<p>○各単元末に「探究活動」があり、学習したことを振り返るとともに、学びを活用して生徒が探究を進められるよう工夫されている。(1年p. 64-65, 2年p. 148-149, 3年p. 76-77)</p> <p>○文章は、簡潔に表現され、また資料や表のデータ、写真等は学習内容に適したものが精選して掲載されており、生徒が内容を読んだり、理解したりしやすいよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(理科) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
E	<p>○巻頭のコラム「理路整然」では、生徒が自身の気づきから課題を見出し、探究する道筋が示され、探究する際の心構えや倫理観を育むよう工夫されている。(1年p. 4-5, 2年p. 4-5, 3年p. 4-5)</p> <p>○観察、実験では、一連の探究の過程がラインと矢印で示されており、生徒が課題を意識しながら見通しをもち探究活動が進められるよう工夫されている。(1年p. 75-78, 2年p. 11-14, 3年p. 11-14)</p>	<p>○単元の初めに「Can-Do List」として資質・能力が明示されており、単元の学習に見通しと目的意識をもって向かえるよう配慮されている。(1年p. 7, 2年p. 7, 3年p. 7)</p> <p>○「探究」では、課題解決に向けた話合いの様子がイラストを用いて示されており、他者の意見を尊重し、協力し合う態度を育めるよう工夫されている。(1年p. 69, 2年p. 19, 3年p. 11)</p>	<p>○多くの写真資料が大きく鮮明に掲載されており、生徒が自然の事物・現象に対して興味・関心を高められるよう工夫されている。(1年p. 76-77, 2年p. 78-79, 3年p. 18-19)</p> <p>○探究活動の導入「気づき」では、身近な現象・事象や、前時の学習からつながる事柄を、図版やキャラクターの会話で示し、興味・関心をもって探究に取り組めるよう工夫されている。(1年p. 51, 2年p. 121, 3年p. 89)</p>	<p>○コラム「理路整然」では、探究の過程を深めるための視点や、身近な場面で探究の手法を生かす例が紹介され、生徒が探究の過程を通して学びを深められるよう工夫されている。(1年p. 200-201, 2年p. 33, 3年p. 75)</p> <p>○1年の「地層から過去を読みとる」に出雲市の地層、2年の「気象に関する恵み・災害」に江津市の風力発電の様子が紹介されており、地域の資源に興味をもてるよう工夫されている。(1年p. 170, 2年p. 234)</p>	<p>○巻頭の「なぜ理科を学ぶの？」では、理科を学ぶことの意味、社会とのつながりを漫画でわかりやすく示しており、実生活との関連性が意識できるよう工夫されている。(1年p. 2-3, 2年p. 2-3, 3年p. 2-3)</p> <p>○各章の扉にSDGsとの関連がマークで示されるとともに資料も掲載される等、持続可能な社会の実現について、理科の学習を踏まえて考えられるよう工夫されている。(1年p. 9, 2年p. 240-241, 3年p. 232-233)</p>	<p>○巻末の「思考をさらに深める」では、全国学力・学習状況調査等の問題を掲載し、思考力、判断力、表現力等の向上を図ることができるよう工夫されている。(1年p. 241-252, 2年p. 271-291, 3年p. 275-291)</p> <p>○「ミライ教科書」にアクセスできる二次元コードが掲載され、生徒の興味や必要性に応じた学習ができるよう工夫されている。</p>	<p>○コラム「理路整然」では、文章を書く、読み取る例や身近な場面で探究の手法を生かす例が紹介され、生徒の思考力、判断力、表現力等を育めるよう工夫されている。(1年p. 200-201, 2年p. 33, 3年p. 75)</p> <p>○単元の初めに「Can-Do List」があり、生徒が自分で「できるようになりたい目標」をチェックできるようになっており、科学的に探究するために必要な資質・能力を意識して学習することができるよう工夫されている。(1年p. 7, 2年p. 7, 3年p. 7)</p>
G	<p>○本文の文字が大きく、字間や行間も余裕があり、生徒が読みやすくなるよう配慮されている。</p> <p>○巻頭に「探究の進め方」が折込で示されており、本文ページを開いた状態で生徒が探究の過程のどの段階にいるのかを確認できるよう工夫されている。(1年巻頭⑤, 2年巻頭⑤, 3年巻頭⑤)</p>	<p>○各単元に1～2か所ずつ「疑問から探究してみよう」が設定されており、生徒の科学的に探究する力を重点的に育めるよう配慮されている。(1年p. 222-226, 2年p. 64-69, 3年p. 45-48)</p> <p>○「話し合おう」が課題や仮説の設定、観察、実験の計画の立案、結果の処理、考察等の各場面があり、生徒一人一人が自分の考えをもとに話合いができるよう配慮されている。(1年p. 10, 2年p. 27, 3年p. 208)</p>	<p>○コラム「ハローサイエンス」では、科学と歴史との関連、高校レベルの発展的内容等にふれることができ、生徒が興味・関心を高められよう工夫されている。(1年p. 160-161, 2年p. 22, 3年p. 51)</p> <p>○二次元コードからアクセスできる「まなびリンク」があり、計測によって読み取った数値を記録できる表や要点のチェックなどICT機器を活用した学習の質の向上に配慮されている。(1年巻頭②)</p>	<p>○5段階のステップで、「基本問題」「活用問題」、巻末の「学年末総合問題」が多く掲載されており、生徒が家庭学習に活用しやいよう工夫されている。(1年p. 258-265, 2年p. 280-287, 3年p. 308-313)</p> <p>○「理科室のきまりと応急処置」では、実験中に地震が起きたときや感染症が広がっているときの注意事項が記載されており、安全に観察、実験ができるよう配慮されている。(全学年p. 2-3)</p>	<p>○コラム「ハローサイエンス」では、身近な科学の話題や最先端の話題を取り上げ、生徒が日常生活や社会と学習内容とを結びつけられるよう工夫されている。(1年p. 119, 2年p. 54, 3年p. 97)</p> <p>○各単元末の「広がる科学の世界」では、学習した内容が実際に活用されている場面が紹介されており、生徒が科学と実生活との関連を実感しやすくなるよう工夫されている。(1年p. 69, 2年p. 77, 3年p. 65)</p>	<p>○実験結果を教科書に書き込むページが多く、生徒が実験データを整理しやすいよう工夫されている。(1年p. 153, 2年p. 39, 3年p. 9)</p> <p>○本文中の重要用語が太い朱色の文字で示されており、生徒が視覚的に捉えやすくなるよう工夫されている。(1年p. 59, 2年p. 72-73, 3年p. 10)</p>	<p>○「疑問から探究してみよう」や「探究の進め方」の折込によって、生徒の科学的に探究するために必要な資質・能力を育めるよう工夫されている。(1年p. 222-226, 巻頭⑤, 2年p. 64-69, 巻頭⑤, 3年p. 45-48, 巻頭⑤)</p> <p>○本文の文字が大きく示されているとともに、重要用語が読み仮名付きの太い朱色の文字で示されており、生徒が読みやすくなるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(理科) No. 3

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
L	<p>○3学年とも同じ単元順序で配置することで、各学校のカリキュラムに合わせて、柔軟に単元順序を組みかえしやすいよう工夫されている。</p> <p>○各章の初めに「つながる学び」があり、二次元コードからフラッシュカードで既習事項が確認できるサイトにアクセスでき、生徒が個別に学習の自己評価ができるよう工夫されている。(1年p. 20, 2年p. 4, 3年p. 4)</p>	<p>○「探Q実験」「探Q実習」では、他者の意見を参考に自分の考えの妥当性を検討する場面が設定されており、対話が豊かになるよう工夫されている。(1年p. 89-91, 2年p. 35-37, 3年p. 23-24)</p> <p>○単元の初めと終わりに「学ぶ前にトライ!」「学んだ後にリトライ!」があり、二次元コードから「ふり返りシート」にアクセスでき、生徒が自己の学習を振り返ることができるよう工夫されている。(1年p. 19, 2年p. 3, 3年p. 3)</p>	<p>○章の導入では、「はてなスイッチ」があり、二次元コードを読み取ると動画が視聴でき、生徒が主体的に問題を見出せるよう工夫されている。(1年p. 20, 2年p. 4, 3年p. 4)</p> <p>○科学コラムに「部活ラボ」「お料理ラボ」「お仕事ラボ」「防災減災ラボ」等、科学と日常生活の関連について取り上げられており、生徒が興味・関心を高められるよう工夫されている。(1年p. 53, 2年p. 59, 3年p. 159)</p>	<p>○「学年末総合問題」の「つながる問題」では、複数の領域を横断した問題が掲載されており、思考力や読解力を育めるよう工夫されている。(1年p. 256, 2年p. 283, 3年p. 308)</p> <p>○「深めるラボ」では、「日本瓦と日本列島の大地の多様性」において石州瓦が紹介されるとともに、原料が大田市で採掘されている様子が掲載されており、地域の資源に興味をもてるよう工夫されている。(1年p. 72)</p>	<p>○「Action 活用してみよう」では、理科の知識や概念を日常生活等に活用できる場面が設定され、学びが深まるよう工夫されている。(1年p. 157, 2年p. 39, 3年p. 7)</p> <p>○科学コラムに「お仕事ラボ」があり、職業と理科の学習との関連が図られ、キャリア教育につながるよう配慮されている。(1年p. 108, 2年p. 118, 3年p. 91)</p>	<p>○巻末に「探Qシート」があり、生徒が自分の考えを記述して話し合うなど、言語活動を通して、表現力が豊かになるよう配慮されている。(全学年巻末)</p> <p>○二次元コードから問題や解説動画などにリンクできるようになっており、生徒が1人1台端末からアクセスし、家庭学習に活用できるよう工夫されている。(1年p. 53, 2年p. 190, 3年p. 8)</p>	<p>○「探Q実験」「探Q実習」「探Qシート」によって、生徒が自分の考えを自由に記述し、他者と対話することで、探究の過程を主体的に追究するよう工夫されている。(1年p. 89-91, 2年p. 35-37, 3年p. 23-24, 全学年巻末)</p> <p>○巻頭の「ICTの活用」「ICTでトライ」では、情報の入手、データの処理等の仕方や、結果の共有・発表の仕方、観察、実験での活用例等が示され、1人1台端末の活用を促すよう工夫されている。(各学年p. ⑦-⑧)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(音楽・一般) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
G	<p>○「Active!」では、紙面と同じワークシートが二次元コードで示され、個の考えをもとに友達と交流することができ、主体的・対話的な学びにつながるよう工夫されている。(2・3年上p.23)</p> <p>○「比べてみよう」では、同じ題材に複数の教材を示して比較することで、学びを深めることができるよう工夫されている。(1年p.14-16)</p>	<p>○「学習MAP」では、領域・分野ごとのまとまりで題材や教材が示され、見通しをもって学習をすることができるよう配慮されている。(全学年p.8-9)</p> <p>○わが国とアジア地域の声によるさまざまな表現の鑑賞では、表現活動へつなぐことで音楽文化と豊かに関わりながら学習を深めることができるよう工夫されている。(1年p.58-61)</p>	<p>○巻頭に作曲者のエピソードが紹介され、作曲者の思いにふれることで生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(全学年p.4)</p> <p>○「日本の歌みんなの歌」では、歌詞の情景を表す多くの鮮やかな風景の写真が掲載され、生徒がイメージしながら感動をもって表現できるよう工夫されている。(2・3年下p.10-11)</p>	<p>○巻末には、全校合唱として「故郷」が学年に応じた編成で掲載され、全校で取り組むことができるよう工夫されている。(全学年p.84-85)</p> <p>○「歌のアルバム」には、発達の段階に応じた音域の合唱曲が数多く掲載され、生徒が歌いやすいパートを選択し、声を合わせながら表現の工夫を行うことができるよう工夫されている。(1年p.66-83)</p>	<p>○「CMソングをつくろう」では、創作のポイントが例示され、総合的な学習の時間などとの関連を図り、身近な言葉を使って学習に取り組むことができるよう工夫されている。(2・3年下p.32-33)</p> <p>○「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」では、アウトリーチや幼稚園での音楽活動が示され、音楽と豊かに関わることへの理解が深まるよう工夫されている。(2・3年下p.66-67)</p>	<p>○「指揮をしてみよう」では、指揮の仕方を紙面と解説動画で示し、個別最適かつ着実に技能を習得できるように配慮されている。(2・3年下p.28-29)</p> <p>○鑑賞教材には、リズムや主題の楽器別演奏が楽譜とイラストで示され、生徒が理解を深め個別最適な学びにつながるよう工夫されている。(2・3年上p.44-46)</p>	<p>○「まなびリンク」で示される内容が多様で、音とじっくり対話できる工夫や、情景など映像付きでイメージをふくらませて学習することができるよう工夫されている。</p> <p>○巻末には折込を使った大きな紙面で楽器が紹介され、「まなびリンク」とあわせて学習することで生徒の興味・関心や理解を深められるよう工夫されている。(2・3年上p.91-93)</p>
H	<p>○「学びのコンパス」では、二次元コードにより音源とともにワークシートが示され、音と関わらせながら実感を伴った学習活動ができるよう工夫されている。(1年p.32-33)</p> <p>○「Challenge!!」では、題材のねらいに沿った参考曲が示され、学習を深めることができるよう配慮されている。(2・3年上p.37, 下p.32)</p>	<p>○学習内容が資質・能力をもとにまとめられ、対応する教材等を示し、生徒自身が学習を通して身に付ける力を確認することができるよう配慮されている。(全学年p.8-9)</p> <p>○学習目標、音楽を形づくっている要素、楽曲紹介文、考えたいポイント等が表記され、学習内容が一目でわかるよう工夫されている。(2・3年下p.16, 32)</p>	<p>○巻頭に音楽家や様々な分野で活躍する人々のコメントを掲載し、音楽への興味・関心を高め主体的に活動するための工夫がされている。(全学年p.2-5)</p> <p>○創作の学習では、創作ツールなどを使い、試行錯誤したり自分のつくったものを聴いてみたりといった創意工夫を繰り返しながら学習することができるよう配慮されている。(1年p.20-21)</p>	<p>○郷土の祭りや芸能として石見神楽や出雲神楽などが写真とともに掲載され、地域の文化に親しみ大切にすることを育むよう工夫されている。(2・3年上p.68-69, 下背表紙)</p> <p>○「心通う合唱」には混声二部合唱曲が多数掲載され、少人数でも混声合唱の響きを味わうことができるよう配慮されている。(1年p.72-81)</p>	<p>○ポピュラー音楽について、国内外の様々なジャンルのアーティストと代表曲が多数掲載され、生涯にわたり音楽文化に親しむきっかけとなるよう工夫されている。(2・3年下p.58-63)</p> <p>○「生活や社会の中の音や音楽」では、学校の中の音などが複数掲載され、身の回りの音や環境音の果たす役割について考えることができるよう工夫されている。(1年p.68-69)</p>	<p>○歌唱教材のカラピアノやパート別音源が二次元コードで示され、個別最適な学びのための工夫がされている。(2・3年上p.21)</p> <p>○音楽を形づくっている要素についてイラストや楽譜を用いて具体的に示され、要素について学習する内容を明確化するための工夫がされている。(1年p.92-93)</p>	<p>○全領域の学習に豊富なデジタルコンテンツが用意され、個別最適な学びや実感を伴った理解及び技能の習得につながるよう工夫されている。(2・3年下p.12-15)</p> <p>○各領域・分野に示される「学びのコンパス」により、生徒が自分の考えを調整しながら個人やグループで主体的・対話的で深い学びができるよう配慮されている。(2・3年上p.16)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(音楽・器楽) No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
G	<p>○前半「演奏の仕方を身につけよう」で基礎的な知識や技能を習得し、後半「合わせて演奏しよう」で奏法を確認したり楽曲の特徴を感受したりすることができるよう工夫されている。</p> <p>○各楽器の学習では、基礎的な技能と楽曲が関連付けて配置されており、表現を通して技能が習得できるよう配慮されている。</p>	<p>○各楽器の導入では、それぞれの楽器の紹介や基礎的な奏法について、多くの写真と解説により、まとめて示されている。</p> <p>○「表現の仕方を調べてみよう」では、楽器の音の出る仕組みやかまえ方、音色などの特徴に着目し、共通点や相違点について考え、話し合いを通して学びが深められるよう工夫されている。(p. 30, 55)</p>	<p>○デジタルコンテンツ「まなびリンク」の活用により、動画で模範演奏を視聴することで主体的な学習ができるよう配慮されている。(p. 17)</p> <p>○「リコーダー運指表」「ギター&キーボードコード表」が見開きページで示され、運指などを確認しやすくなるよう配慮されている。(p. 103-106)</p>	<p>○「Let's Play!」「Let's Try!」では、各楽器の特徴を生かした合奏教材がクラシック、ポピュラー、民謡などから幅広く取り上げられており、生徒の実態に合わせて選択できるよう配慮されている。(p. 64-95)</p> <p>○各楽器の学習におけるまとめの曲では、学習した基礎的な奏法をどこで使うか一目でわかるよう、楽譜の中に番号等が示されている。(p. 39, 45)</p>	<p>○「吹く楽器の仲間たち」「弾く楽器の仲間たち」では楽器の背景にある文化や伝統などについて調べたり、楽器と形の関係について思考したりすることができるよう工夫されている。(p. 31, 56-57)</p> <p>○我が国の郷土芸能や伝統音楽に表れるリズムの由来について、日本の地理的な特徴と関連させて紹介している。(p. 63)</p>	<p>○「名曲旋律集」では、歌唱や鑑賞の学習で扱う楽曲が掲載され、関連を図った学習ができるよう工夫されている。(p. 98-101)</p> <p>○リコーダーの練習曲にコードネームがつけられており、和音を感じながら表現することができるよう配慮されている。(p11, 14, 17, 20)</p>	<p>○幅広いジャンルの楽曲が多数掲載されており、学校や生徒の実態に応じて選曲できるよう配慮されている。</p> <p>○習得した技能を使って発展的な学習内容に取り組んだり、合わせて演奏する活動に幅広く取り組んだりできるよう配慮されている。</p>
H	<p>○前半の各楽器の学習では、生徒の実態に合わせて基礎的な技能が習得できるよう、平易な曲が扱われており、基礎・基本の定着を図ることができるよう構成されている。</p> <p>○「アンサンブル」「楽器でMelody」では、身に付けた力をもとに、曲想にふさわしい表現を工夫したり、楽曲の構造を生かした表現をしたりすることができるよう配慮されている。(p. 71-99)</p>	<p>○各楽器の導入においては、生徒の実態に合わせて基礎的な技能を習得できるよう、写真を使って簡潔にまとめて示されている。</p> <p>○「学びのコンパス」では、音楽的な見方・考え方を働かせて曲に対する自分の考えをもち、友達との意見交流を通して学習を深めることができるよう工夫されている。(p. 17, 55, 81, 85)</p>	<p>○二次元コードで、伴奏やワークシート、演奏家からのメッセージ等が示され、生徒が主体的に学習したり、理解を深めたりすることができるよう工夫されている。</p> <p>○「バンドの世界をのぞいてみよう」では、スコアやタブ譜が掲載されており、ギターやドラム等への興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 68-69)</p>	<p>○リコーダーの教材は、多くの曲でアルトリコーダーでもソプラノリコーダーでも取り組めるよう配慮されている。(p. 10-25)</p> <p>○「打楽器」では、15種類の楽器が紹介され、それぞれについて写真を用いた奏法の紹介と練習の方法が示されている。また、学んだことを「打楽器のための小品」等の打楽器アンサンブルで活用できるよう工夫されている。(p. 63-67)</p>	<p>○音楽活動の経験や音楽科で得た知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるよう、生活の中にある様々な音や音楽への関心を促す特集が配置されている。(p. 2-5, 50, 56, 59, 107)</p> <p>○「打楽器のための小品」では、木箱や空き缶等、身の回りにあるものを活用し、音色によって生まれるおもしろさを味わえるよう工夫されている。(p. 90-91)</p>	<p>○和楽器の学習では、親しみや実感をもって表現できるよう、はじめに唱歌や口三味線を歌う活動が示されている。(p. 40, 49, 53)</p> <p>○箏のページでは、演奏する際の姿勢と礼儀について書かれており、我が国の伝統文化や習慣を理解することができるよう配慮されている。(p. 36)</p>	<p>○比較的平易な楽曲が掲載されており、基礎・基本の定着を図ることができるよう配慮されている。</p> <p>○器楽の学習内容がまとめられ、音楽科で身に付ける資質・能力と、学習の支えとなる音楽を形づくっている要素との関連が示されている。(p. 8-9)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(美術) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
D	<p>○1年と2・3年の2冊に整理し、「学びの資料」として各冊子に掲載された題材に関連する資料をそれぞれの巻末に入れ、授業で活用できるよう工夫されている。</p> <p>○多くの題材で、4ページを使用し、たくさんの参考作品や制作過程を示すことで具体的なイメージをもって学習に臨むことができるよう工夫されている。(2・3年p.10-13)</p>	<p>○資料の中に「展覧会をつくる」というページを設け、表現や鑑賞の活動とは別の美術のおもしろさを考えられるよう工夫されている。(2・3年p.94-95)</p> <p>○資料の中に「量感の表現」として、彫刻の造形的な視点となる量感を取り上げ、生徒が視覚的に理解できるよう工夫されている。(2・3年p.104)</p>	<p>○表紙が作品の素材等を再現した質感となるよう工夫されており、生徒の興味・関心を引くようデザインされている。</p> <p>○アニメ監督、漫画家、絵本作家、デザイナー等、生徒が興味・関心をもつ人物や言葉、制作過程を取り上げている。(1年p.8-9, p.13, p.58-59, 2・3年p.2-5, p.120-127)</p>	<p>○「美術の用語」として、美術の専門用語を中学生に分かりやすく短い文で紹介、解説している。(1年p.41)</p> <p>○「そっくりに描くだけが自画像ではない」というコメントにより、発想は自由であるという教科の特性を表し、生徒が自分らしく表現できるよう工夫されている。(2・3年p.17)</p>	<p>○題材に関連して、SDGsにつながる内容を取り上げ、コラムの形で紹介している。(1年p.53)</p> <p>○思考ツールなどを紹介し、自分の内面を掘り下げるものや、使う人のことを考えること、社会に役立つと思うものなど、生徒の発想を広げる手立てを紹介している。(1年p.43, 49, 59, 2・3年p.16)</p>	<p>○二次元コードでワークシートにアクセスすることができ、教師の経験等に関わらず授業を行うことができるよう工夫されている。(1年p.22)</p> <p>○作品の一部や実物の原寸を多数掲載しており、実物を想像しながら鑑賞できるよう工夫されている。(2・3年p.49, 91)</p>	<p>○「発想・構想」「知識・技能」「鑑賞」の学習の目標に対応した色分けで学習過程が整理され、題材に応じて適切な順番に配列されている。(1年p.10-13, 18-19)</p> <p>○表紙が作品の素材等を再現した質感となっていたり、漫画家など、生徒が興味のある人物を取り上げたりすることで興味・関心をもてるよう工夫されている。(1年p.8-9, 2・3年p.2-5, 120-127)</p>
I	<p>○資料を携行しやすいサイズの別冊とし、学年が上がっても既習事項を3年間振り返って確認できるよう工夫されている。</p> <p>また、資料は2つ折りにできるコンパクトな設計になっている。</p> <p>○題材によってページ数を増やし、作品の制作過程や完成作品を掲載することで生徒がイメージをもちやすくなるよう工夫されている。(1年p.24-27)</p>	<p>○「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」として和紙で作られたページを設け、日本絵画の特徴を5つに整理して学習できるよう工夫されている。(2・3年p.27-42)</p> <p>○表現の題材において、鑑賞から発想・構想につなげ、制作の後に再び鑑賞をする構成とし、表現と鑑賞を関連付けるよう工夫されている。(1年p.24-27)</p>	<p>○「体感ミュージアム」として、「風神・雷神像」が見下ろすように感じる角度からの撮影、異なる作者の「風神雷神図屏風」との比較により、生徒の興味・関心を引くよう工夫されている。(1年p.36-43)</p> <p>○「今の自分、これからの自分」で、生徒自身の言葉を名言風に掲載し、興味をもって学習に向かうよう工夫されている。(2・3年p.54-55)</p>	<p>○表現において「みんなの工夫」として中学生の発想・構想が作者の言葉と写真で掲載されており、少人数の学校でも参考にできるよう工夫されている。(1年p.17)</p> <p>○「日本の伝統工芸」として石見焼の蓋つき壺が掲載されており、故郷の伝統工芸に誇りをもつことや他の日本の伝統工芸にも関心をもつよう工夫されている。(2・3年p.101)</p>	<p>○デザイン・工芸のはじめのページに一日の流れとデザイン・工芸とのかかわりを視覚化し、生活との関連が理解できるよう工夫されている。(2・3年p.68-69)</p> <p>○「○○科とのつながり」として、他教科等との関連を示し、教科等横断的な視点をもって学習に臨むことができるよう工夫されている。(2・3年p.79)</p>	<p>○「美術史ワード」として美術史の様式を解説し、さらに二次元コードで詳しく学習できるよう工夫されている。(2・3年p.15)</p> <p>○りんごをもとにした様々な作品を紹介し、自由に表現できることを示し、発想の広がりをもたせている。(1年p.14)</p>	<p>○一題材を、参考作品の鑑賞、表現(発想・構想)、関連作品の鑑賞の順に構成し、「POINT」で造形的な視点を示すなど、学習の過程が工夫されている。(1年p.24-27)</p> <p>○3年間使用のコンパクトな別冊資料で既習事項を確認できたり、日本絵画の鑑賞のポイントを整理した和紙のページを設けたりするなど、学習が深まるよう工夫されている。(2・3年p.27-42)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(美術) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
0	<p>○3つの分冊により、1年は「美術との出会い」、2・3年上は「学びの実感と深まり」、2・3年下は「学びの探求と未来」と題し、系統的に学習できるよう工夫されている。</p> <p>○「表現のヒント」として、発想・構想や作品制作の参考となる言葉の投げかけや二次元コードの情報などが示されている。(1年p.19)</p>	<p>○「住み続けられる町づくり」は、建物やスペースのデザインにとどまらず、SDGsを意識する町のデザインを取り上げた題材となっている。(2・3年下p.46-47)</p> <p>○「絵巻物の世界」では、生徒が身近に感じにくい絵巻物を、現代の漫画やアニメと関連付けることで、題材として取り扱えるよう工夫されている。(2・3年下p54-55)</p>	<p>○表紙と裏表紙の全体で一つの作品を掲載することで、より鮮明に作品を見ることができ、また各学年のテーマに基づいた作品を表紙に選択し、生徒が興味をもてるよう工夫されている。</p> <p>○「屏風、美のしかけ」では、屏風の作品を実際に折り曲げて机の上に置き、実際の屏風と同じような状態で鑑賞できるよう工夫されている。(1年p.24-29)</p>	<p>○「造形的な視点」として、造形的な見方・考え方が働き、その題材における造形的な視点が明確に意識できるよう工夫されている。(1年p.19)</p> <p>○「どこまで修復すべきか」では、美術作品を後世にいかに残すのかという問いかけをすることで、美術文化の継承の意義、未来に伝えるべき美術文化のありようについて考えられるよう工夫されている。(2・3年下p.34-35)</p>	<p>○芸術家以外の有名人と美術とのかかわりを示すことで、美術は誰にでも生活に役立つ学びとなるよう工夫されている。(2・3年下p.5-7)</p> <p>○カリキュラム・マネジメントの視点で題材と道徳の価値項目との関連について目標が明記され、美術の授業を通して道徳性が養われるよう配慮されている。(1年p.24)</p>	<p>○「短時間でつくる」として、短時間でできる題材で体験的な活動ができるよう工夫されている。(1年p.21)</p> <p>○1人1台端末を利用できる活動に「ICT」のマークがあり、日常的なICTの活用につながるよう工夫されている。(2・3年上p.13)</p>	<p>○各題材の「鑑賞の入り口」「表現のヒント」「造形的な視点」により、題材のねらいに迫る構成となり、学習のポイントを理解して活動できるよう工夫されている。(1年p.16-17)</p> <p>○作品を拡大した表紙や、折り曲げて鑑賞できる屏風作品などにより、興味・関心をもって学習できるよう工夫されている。(1年p.24-29)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(保健体育) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○学習指導要領に示されていない内容には「発展」マークを付け、必要に応じて学習できるよう配慮されている。(p. 80, 126, 136)</p> <p>○各章扉では、学習内容と関連する写真が掲載され、学習内容を生活や地域社会と関連させながら学ぶことができるよう工夫されている。(p. 13)</p>	<p>○導入の「見つける」が、思考や活動を伴う問題提起となっており、学習に対する意欲が高まるよう工夫されている。(p. 30)</p> <p>○章末の「学習のまとめ」では、その章で学んだことを確認するための問題やワークシートにつながる二次元コードが用意されており、学習が定着するよう工夫されている。(p. 54)</p>	<p>○キャラクターが学習のヒントやポイントを伝えることで、生徒が興味・関心を高めながら学習できるよう配慮されている。(p. 48-49)</p> <p>○「キーワード」で、学習のポイントとなる用語を示し、学習後にチェックを入れることができるようになっており、振り返り学習に使えるよう工夫されている。(p. 78)</p>	<p>○スポーツへの多様な関わり方について、わかりやすく項目分けされており、生徒が理解しやすいよう工夫されている。(p. 58-59)</p> <p>○表している意味を直感的に理解しやすいマークや配置の工夫、ユニバーサルデザインフォントなど、誰もが使いやすいよう配慮されている。(p. 78-79)</p>	<p>○「広げる」では、自分たちの生活や身近な地域について考えるよう促し、家庭や社会生活に関連付けて学習できるよう工夫されている。(p. 91, 129)</p> <p>○各章扉には、保健体育に関連する職業についての紹介文があり、生徒が自身のキャリアについて考えるきっかけとなるよう工夫されている。(p. 67)</p>	<p>○自分で操作したり疑似体験をしたりできるデジタルコンテンツが用意されており、学習内容の理解を深めることができるよう工夫されている。(p. 75)</p> <p>○多様性の尊重や共生社会、SDGs、心の健康など、現代的な課題への対応について配慮されている。(p. 51, 140, 185)</p>	<p>○「見つける」で課題をつかみ、「課題の解決」で考え活用し、「広げる」で学習したことを自分事にしたり、さらに調べたりするなど、学習の流れがわかりやすいよう工夫されている。(p. 6, 68-69)</p> <p>○「巻末スキルブック」には、健康や安全に関するスキルがまとめられており、実習の際に、適切な方法を理解し、取り組むことができるよう工夫されている。(p. 177-194)</p>
B	<p>○左ページが本文内容、右ページが関連資料になっており、学習内容を整理しやすいよう配慮されている。また、「章末資料」で理解を深めるよう工夫されている。(p. 16-17, 50-51)</p> <p>○口絵では、保健体育の学びの全体のイメージが、一目でつかめるよう工夫されている。(口絵1-2)</p>	<p>○タイトルの右に「学習のねらい」として、目標をわかりやすく示すことで、学習内容の見通しをもてるよう工夫されている。(p. 4, 30)</p> <p>○章末の「学習のまとめ」では、「重要な言葉」とその解説を掲載するとともに、「まとめの問題」につながる二次元コードが用意されており、学習が定着するよう工夫されている。(p. 28)</p>	<p>○「ミニ知識」や「トピックス」では、学習内容と関連の深い話題や読み物が紹介され、学習を広げたり、深めたりするよう工夫されている。(p. 56-57)</p> <p>○各章末には、「学びを活かそう」が掲載され、生徒が学習内容を深く理解したり、実践に移したりするよう工夫されている。(p. 52)</p>	<p>○スポーツへの多様な関わり方について、写真を使って表してあり、生徒が視覚的に理解しやすいよう工夫されている。(口絵5-6, p. 7)</p> <p>○ユニバーサルデザインに対応し、書体や色使いなど、誰もが使いやすいよう配慮されている。(p. 74-75)</p>	<p>○「活用して深めよう」では、自分たちの生活や身近な地域について考えるよう促し、家庭や社会生活に関連付けて学習できるよう工夫されている。(p. 73, 99)</p> <p>○心肺蘇生法の手順やAEDの使用方法等については、折込式になっており、一覧でわかるよう工夫されている。(p. 106-109)</p>	<p>○学習内容に関連する動画やアニメーションなどで学べるデジタルコンテンツが用意されており、学習を支援し、理解を深めることができるよう工夫されている。(p. 109)</p> <p>○「保健体育の学び方」に、6つの学び方が示され、生徒が多様な学びに取り組めるよう工夫されている。(p. 1)</p>	<p>○学習の中心となる活動について、「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」と具体的に示してあり、学びを深める活動がわかりやすいよう工夫されている。(p. 31, 33, 99)</p> <p>○「リンク」には、関連した内容を学習するページや他教科等とのつながりが示され、系統的な学びができるよう工夫されている。(p. 20)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(保健体育) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
K	<p>○本文の見出しが、その文章の要点を簡潔にまとめた表現になっており、学ぶ内容を把握しやすいよう工夫されている。(p. 32-33)</p> <p>○口絵ではSDGsを取り上げ、2030年までに達成をめざす17の目標の中で、保健体育の学習と関わりの深いものに目を向けられるよう工夫されている。(口絵7)</p>	<p>○「課題をつかむ」が、問題形式や、実際にやってみようになっているとおり、この時間の学習に対する意欲が高まるよう工夫されている。(p. 32)</p> <p>○「章のまとめ」では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の問題が掲載され、各観点に沿った学習の振り返りができるよう工夫されている。(p. 60-61)</p>	<p>○その章を学ぶ時に役立つ体育や保健の見方・考え方をキャラクターのコメントの形で示し、学習が深まるよう工夫されている。(p. 41)</p> <p>○「特集資料」では、その章の学習に関わりのある資料が掲載され、発展的な学習へつながるよう工夫されている。(p. 58-59, 96-97)</p>	<p>○「体力を高めよう」では、本県の課題である体力向上について、生徒が自らの体力向上のための計画を立てやすいよう配慮されている。(p. 66-67)</p> <p>○表している意味を直感的に理解しやすいマークや配置の工夫、ユニバーサルデザインフォントなど、誰もが使いやすいよう配慮されている。(p. 34-35)</p>	<p>○「学習のまとめ」では、自分たちの生活や身近な地域について考えるよう促し、家庭や社会生活に関連付けて学習できるよう工夫されている。(p. 83, 173)</p> <p>○「コラム」では、地域の人々や先人の考えなどにもふれることができ、自分の考えを広げたり、深めたりできるよう工夫されている。(p. 87, 131)</p>	<p>○感染症について、本文に加えて「特集資料」で重点的に扱い、これまでの歴史を踏まえて理解できるよう工夫されている。(p. 156-157)</p> <p>○「デジタル教材の使い方」には、4種類の教材が一覧で示され、学習を支援し、理解を深められるよう配慮されている。(p. 3)</p>	<p>○「課題をつかむ」で課題意識をもち、本文や資料を通して理解を深め、「学習のまとめ」で日常生活につなげて考えるという3ステップ構成にすることで、学習の見通しが立てやすく、主体的な学習が進められるよう工夫されている。(p. 140-141)</p> <p>○「保体クイズにトライ！」では、ウェブ上のクイズで学習したことを振り返ったり、確認したりできるよう工夫されている。(p. 7)</p>
P	<p>○各章扉には、学びたいことや学んだことを表現するスペースがあり、生徒がこれからの学習に対してイメージをもったり、学習を振り返ったりすることができるよう工夫されている。(p. 43)</p> <p>○項目それぞれに問いがつけられており、自分の考えをもったうえで学習に臨むことができるよう工夫されている。(p. 16)</p>	<p>○「ウォームアップ」により、生徒の気付きや疑問から学習が始められるよう工夫されている。また、「とりくメーカー」を設けてメタ認知に関わる力を育むよう工夫されている。(p. 78-79)</p> <p>○「章のまとめ」では、問題の掲載に加えて、「振り返ろう」で自己評価をしたり、「生かそう」で学んだことを活用したりできるよう工夫されている。(p. 68-69)</p>	<p>○キャラクターの言葉が吹き出しに示され、生徒が学習内容への興味・関心や思考する視点をもつことができるよう工夫されている。(p. 46-47)</p> <p>○「情報サプリ」には、学習内容と関連した情報が簡潔に掲載され、日常生活につながる豆知識にふれることで学習への興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 34)</p>	<p>○スポーツへの多様な関わり方について、わかりやすく項目分けされており、生徒が理解しやすいよう工夫されている。(p. 18-19)</p> <p>○「さまざまな学習方法」や「課題学習の整理の仕方」を示し、探究的な学習を進められるよう配慮されている。(p. 9-11)</p>	<p>○「キーワードで見る保健体育の学習内容」では、8つのキーワードについて、他教科や体育実技等との関連を示し、教科等横断的な学習が行えるよう工夫されている。(p. 190-191)</p> <p>○「生活への活用」では、もっと学習したいことや自分自身の生活に生かしたいと思ったことを書くことで、学習と実生活を結びつけるよう工夫されている。(p. 25)</p>	<p>○教え合い学び合う課題に「協働」マークを設け、グループ等で協働的な学びが行えるよう配慮されている。(p. 19)</p> <p>○「学びを生かす」に「見方・考え方」を示すことで、体育や保健の見方・考え方を働かせて話し合ったり、説明したりするよう工夫されている。(p. 55)</p>	<p>○「ウォームアップ」で課題を発見するところから、「エクササイズ」で対話的な活動を促し、「学びを生かす」で実践的な課題に取り組むという学習の流れがわかりやすいよう工夫されている。(p. 78-79)</p> <p>○各章末に「探究しようよ！」を設け、学習内容について生徒の興味・関心や習熟度等に応じて活用したり、高等学校への学びにつなげたりするよう工夫されている。(p. 38-40)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(技術) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○学習指導要領に示された「生活や社会を支える技術」「技術による問題の解決」「社会の発展と技術」の3要素に沿った章構成で、学習が系統的に進められるよう配列されている。(p. ③-1)</p> <p>○技術分野で取り組む問題解決の学習過程や活動を巻頭のガイダンスで詳しく示し、技術分野の学習をスタートしやすいよう配慮されている。(p. 12-25)</p>	<p>○問題解決の題材例を見開きでまとめ、発展例を「もっと問題解決」として示すなど、主体的な問題解決に配慮した使いやすい構成となっている。(p. 72-77)</p> <p>○各編の終末に「学習のまとめ」を設け、大切な用語をまとめることで理解の定着を図るよう工夫されている。(p. 84-85)</p>	<p>○各編の導入で身の回りの製品や社会における技術を取り上げ、技術の見方・考え方を働かせて既存の技術の工夫を読み取ることができるよう工夫されている。(p. 26)</p> <p>○各ページの下段に「技術の工夫」を設け、学習意欲を高めるよう工夫されている。</p>	<p>○問題解決の例が発展例を含めて豊富に紹介されており、生徒や学校の実態に応じて選択することができるよう工夫されている。(p. 120-125)</p> <p>○安全について巻頭でふれるとともに、実習を伴うページでは「安全」「衛生」として写真やイラストを使って注意を促すよう配慮されている。(p. 8-9, 43)</p>	<p>○身近な製品に活用されている技術の多くが日本で開発されたことを取り上げ、技術分野の問題解決が持続可能な社会の構築に果たす役割を意識できるように工夫されている。(p. 14-15)</p> <p>○「学んだことを社会に生かす」では社会人のメッセージを掲載し、技術の学びを生かして働く人々の思いから学ぶことができるよう配慮されている。(p. 275)</p>	<p>○編末資料「すごい！技術」では、関連する最先端の技術に携わる「技術の匠」を紹介している。</p> <p>○ユニバーサルフォントの採用に加え、淡い色彩を多用することで見やすい紙面となっている。</p>	<p>○各編の最後に「技術分野の学習を終えて」という項目を設け、どのような資質・能力が身に付いたかチェックできるように構成されている。(p. 272-273)</p> <p>○ガイダンスから各編で実社会をイメージしたイラストが使用され、技術分野の学習の見通しとそれぞれの技術のつながりが意識できるように工夫されている。(p. 88-89)</p>
C	<p>○教科書本体では題材例に沿って製作過程を提示し、基礎技能は別冊でまとめて説明することで、基礎技能を習得しやすいよう工夫されている。(p. 54-59)</p> <p>○生徒に親しみのある漫画を用いて問題解決の流れを学べるページを設け、生徒が主体的に問題解決に取り組めるよう工夫されている。(p. 36-37)</p>	<p>○「プチ問題解決にチャレンジ！」や複数の素材を用いた題材例では、作業手順を複数ページにわたり写真で示し、生徒が理解しやすいよう工夫されている。(p. 38-41)</p> <p>○各編の終末に「まとめ」が設けられ、評価の観点ごとに学習内容を確認できるよう配慮されている。(p. 69)</p>	<p>○各編の扉に、技術が実際に社会で利用されている様子の写真を配置することで、学習の導入時に興味・関心を高められるよう工夫されている。(p. 14-15)</p> <p>○二次元コードを別冊や実習題材のページに絞って配置し、動画などの閲覧により学習内容の理解をより確かなものにできるよう工夫されている。(p. 55, 別冊p. 3)</p>	<p>○技術による問題解決の流れを丁寧に説明することにより、生徒が主体的に問題解決に取り組むことができるよう工夫されている。(p. 8-9)</p> <p>○安全について巻頭でふれるとともに、実習の前の特設ページ「実習の安全な進め方を知ろう」によって安全への意識を高められるよう配慮されている。(p. 12-13, 34-35)</p>	<p>○「技ビト」「スゴ技」といったコラムを掲載し、生徒が生活や社会の中で使用される技術について興味・関心をもてるよう配慮されている。(p. 22, 29)</p> <p>○技術関係の専門高等学校に進学した高校生のメッセージを掲載し、進路について考えるきっかけとなるよう配慮されている。(p. 250-251)</p>	<p>○各内容の基礎技能を別冊「スキルアシスト」にまとめている。(別冊)</p> <p>○図や写真、イラスト、表の資料を多く用いるとともに、本文中では資料との関連を色付きマーカーで明示している。(p. 120-123)</p>	<p>○全内容の最後の「夢をかなえる技術」では、複数の内容を組み合わせた問題解決の実例を示すことで、学習内容を今後に生かす意欲を高められるよう配慮されている。(p. 246-249)</p> <p>○各編の扉に社会で利用されている最先端技術の写真を大きく配置し、技術への興味・関心を高められるよう工夫されている。(p. 70-71)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(技術) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
D	<p>○製作工程に沿って基礎技能を説明するとともに、「参考」で発展的な内容を示すことで、発展的な学習に対応できるよう工夫されている。(p. 76-97)</p> <p>○巻頭のガイダンスで全体の学習過程を示すとともに、各章で内容ごとに学習活動を示すことで、技術分野の問題解決について把握しやすいよう工夫されている。(p. 6-17)</p>	<p>○単一の素材を用いた実習例が多数提示されており、実習例ごとの問題解決のプロセスが具体的でわかりやすくなっている。(p. 62-73)</p> <p>○各編の「学習のまとめ」には選択、記述、作図など多様な問題があり、学んだことを確認しやすくなっている。(p. 102-103)</p>	<p>○各編の冒頭には技術の歴史、小学校との関連、中学校他教科との関連が示してあり、学習の導入時に興味・関心を高められるよう工夫されている。(p. 26-27)</p> <p>○各ページの下段に「豆知識」が設けてあり、学習意欲を高められるよう工夫されている。</p>	<p>○問題を発見して課題を設定するために、身近な生活や社会とのつながりを意識したイラストで考える視点が示されている。(p. 52-53)</p> <p>○安全について、巻頭では望ましい行動や環境をイラストやチェックリストで確認し、実習を伴うページでは安全マークによって留意するよう配慮されている。(p. 18-19, 79)</p>	<p>○小学校や他教科とのつながりを各編の扉に示し、関連箇所にもマークを示すことで、学年・教科横断的なカリキュラムを編成しやすいよう配慮されている。(p. 27)</p> <p>○各編の終末に「Interview」が設けられ、技術に関する職業の理解や勤労を重んずる態度を養えるよう配慮されている。(p. 104-105)</p>	<p>○鮮明で色合いの濃い図や表を多く用いるとともに、吹き出しによって注目すべき点が明示されている。</p> <p>○「命を守る防災、医療・介護の技術」が巻末にまとめて掲載され、社会の中で使われている技術について考えるきっかけとなるよう配慮されている。(p. ⑥-⑧)</p>	<p>○巻末に「技術分野の出口」という章を設け、3年間の学習内容を振り返り、今後を展望できるように構成されている。(p. 286-289, 303)</p> <p>○各編の扉に写真を大きく配置し、技術の歴史、社会の願いや要求についてもまとめられ、学習の流れがつかみやすくなっている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(家庭) No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○内容は、ガイダンス、A「家族・家庭生活」の一部、B「衣食住の生活」、C「消費生活・環境」、A「家族・家庭生活」の順で構成されている。</p> <p>○小学校の学習内容と深くかかわるところでは、二次元コードで小学校家庭科の教科書紙面が確認できるよう工夫されている。(p. 10-11)</p>	<p>○「生活に生かそう」「まとめよう」では、ねらいに沿ったまとめができ、次の学びにつながるよう工夫されている。(p. 31, 119)</p> <p>○思考ツールを「考えてみよう」「やってみよう」「調べてみよう」などの活動に取り入れ、主体的・対話的で深い学びを通して、問題解決能力を高めることができるよう工夫されている。(p. 6-7, 21, 25, 242)</p>	<p>○各編の扉では、見開きの写真で興味を引き、キャラクターの言葉で問題発見、課題設定のヒントを示し、チェックできるよう工夫されている。(p. 28-29)</p> <p>○紙面全てで見開き右上の二次元コードからデジタルコンテンツにアクセスできるようになっており、学習内容の日常的な利用を促す配慮がされている。(p. 31)</p>	<p>○巻頭に「実習を楽しく安全に進めよう」を設け、「けがの応急手当」等はイラスト入りで、「手の洗い方」は段階写真とともに示され、安全面に留意しやすいよう配慮されている。(p. 8-9)</p> <p>○各編の「学習のまとめ」に「大切な用語の確認」を設け、基礎的な知識の定着が図られるよう配慮されている。(p. 110)</p>	<p>○巻末に「災害に備える」が設けられ、家庭分野ならではの防災・減災について実生活に生かせるよう工夫されている。(p. 286-287)</p> <p>○巻末に「学んだことを社会に生かす」を設け、家庭分野の各内容を深めるとともに、働く人たちの学習内容別に取り上げ、家庭分野の学習と社会とのつながりを感じることができるよう工夫されている。(p. 284-285)</p>	<p>○折込ページを参照しながら効果的に学習を進めることができるよう工夫されている。(p. 41-47, 35)</p> <p>○食物アレルギーについての資料を掲載するとともに、食物アレルギーに注意を促すマークを付け、食生活で常に留意することができるよう工夫されている。(p. 59, 76)</p>	<p>○内容A「家族・家庭生活」の一部、B「衣食住の生活」、C「消費生活・環境」、A「家族・家庭生活」の順で構成することで、3年間の指導計画が立てやすいよう配慮されている。</p> <p>○各節は、目標、レッズスタート、学習課題、本文、図版、活動、まとめの活動の流れで統一され、授業の流れがわかりやすく構成されている。(p. 30)</p>
C	<p>○内容は、口絵のガイダンス、A「家族・家庭生活」、B「衣食住の生活」、C「消費生活・環境」の順で構成されている。</p> <p>○各章のはじめに「自立度チェック」があり、生徒が生活を振り返り生活の中から問題を見出すことができるよう工夫されている。(p. 15, 71)</p>	<p>○「ふり返る」では学習のまとめごとに自己評価をし、章末のまとめの「学習のふり返り」では3観点に沿った問題に取り組むことで、学習内容が確実に身に付くよう工夫されている。(p. 55, 68)</p> <p>○「考えてみよう」にはロールプレイなどの体験的な活動例が掲載され、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されている。(p. 17, 24)</p>	<p>○「栄養素のバランスのよい、一日分の献立を考えてみよう」で使うシールがついており、視覚的に理解しやすく、食に対する興味がわくよう工夫されている。(p. 93, 巻末シール)</p> <p>○紙面の下部に掲載された二次元コードの横にデジタルコンテンツ名が併記されており、アクセスしやすいよう工夫されている。(p. 19)</p>	<p>○実習中に地震が起きた際の身を守る行動を取り上げたり、実習時のイラストから危険な行為を考える活動を示したりと、安全面に留意しやすいよう配慮されている。(p. 12-13)</p> <p>○各章末の「学びを生かそう」では、学習したことを踏まえた問題解決学習の例が示されており、学んだ知識や技能が生活に生かせるよう工夫されている。(p. 66-67, p. 78-79)</p>	<p>○口絵には、年中行事が月ごとに写真とイラストで掲載され、伝統的な文化との関連が意識されるよう工夫されている。(口絵3-8)</p> <p>○「センパイに聞こう！」や「メッセージ」では、家庭分野の学習に関係する人が仕事で大切に行っていることや生徒へのアドバイスを掲載し、将来の職業や生活の参考になるよう工夫されている。(p. 35, 49)</p>	<p>○食品成分表や調理実習の材料に6つの食品群のマークを付け、栄養や献立の学習と調理実習のつながりを意識できるよう工夫されている。(折込⑦, p. 116)</p> <p>○特定原材料を使用する料理の代替食品の例を示し、材料分量に赤の下線を引き、食物アレルギーのある生徒に対応できるよう配慮されている。(P. 116)</p>	<p>○各章はじめの「自立度チェック」、小題材ごとの自己評価、章末の「学習のふり返り」など、振り返りを重視し主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。(p. 15, 19, 34)</p> <p>○「学びを生かそう」では、学習したことを生活に生かすための課題設定や、課題設定理由を考え、実践する取組により、学習内容を日常生活につなげられるよう工夫されている。(p. 66-67)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(家庭) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
D	<p>○内容は、ガイダンス、A「家族・家庭生活」、B「衣食住の生活」、C「消費生活・環境」の順で構成されている。また、目次の二次元コードからデジタルコンテンツ一覧にアクセスできる。</p> <p>○各編の導入部分では、小学校の学びや日常生活を取り上げ、シンプルで具体的に答えやすい問いかけにより、生徒がスムーズに学習に入れるよう工夫されている。(p. 90, 184)</p>	<p>○各編末に見開きで「学習のまとめ」があり、イラストや写真で考える活動が示され、自分の考えを記入することにより、巻末の「生活の課題と実践」につながるができるよう工夫されている。(p. 86-87, 176-177)</p> <p>○食生活の内容では、全題材の最後に1日の献立づくりを配置し、既習事項を生かした学習となるよう工夫されている。(p. 166)</p>	<p>○メジャーリーグで活躍する野球選手やLGBTQなどメディアで取り上げられている事例を掲載し、生徒が関心をもって学習に取り組めるよう工夫されている。(p. 13, 80-81)</p> <p>○食品名や材料名について、見開きを使いクイズ形式で考えさせることで、食品に対する興味がわくよう工夫されている。(p. 96-97)</p>	<p>○「楽しく安全に実習しよう」では、準備のポイント、イラストを見て考えるQ&Aが示してあり、安全について留意しやすいよう配慮されている。(p. 14-15)</p> <p>○各章の「学習のまとめ」では、イラストや写真付きの設問を取り入れることで、生徒が具体的にイメージして考えられるよう工夫されている。(p. 86-87, 260-261)</p>	<p>○防災について、本文での記載に加えて特設ページを設け、日常的な備えについて発展的に取り上げ、生活に生かせるよう工夫されている。(p. 248-255)</p> <p>○「先輩からのエール」「地域の取り組み」では、学習内容にかかわる職業や地域の取組について紹介し、生徒の視野を広げ、社会とのつながりを意識できるよう工夫されている。(p. 32-33)</p>	<p>○栄養素のゆくえの図式化や実験例で目に見えない栄養素を視覚的に示すなど、実感を伴って学習が進められるよう工夫されている。(p. 100-101, 104-105)</p> <p>○アレルギー物質を含む食材の情報を調理実習例に黄色マークで示し、食物アレルギーのある生徒に対応できるよう配慮されている。(p. 128)</p>	<p>○課題を解決するための手がかりや本文内容の理解を助ける科学的な資料を効果的な表現や分量・大きさで示し、生徒が関心や意欲を高め主体的に学べるよう工夫されている。(p. 100-101)</p> <p>○発展的な内容を多く取り上げることで、生徒の主体的な学びを促し、視野を広げ、学びを深められるよう工夫されている。(p. 248-255)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(英語) No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○1年の「夏休み特集」以降にRead and Thinkが加わり、概要をつかむために写真を選ぶなど、目的に応じた読み方ができる内容となっている。語彙は、小学校の既習語630語、中学校約1700語の計約2300語のうち800語を発信語彙としている。(1年p. 66-67)</p> <p>○3年間で、239～556語の計7つの読み物教材(物語文3、説明文及び伝記各2)が掲載されている。(1年p. 126, 2年p. 44, 3年p. 92)</p>	<p>○Unitの初めには、GOALとUnit Activityの内容が示されており、見通しをもって、目的・場面・状況を意識した学習ができる構成になっている。(3年p. 31, 38)</p> <p>○単元を貫く問いが設定され、問いに対する考えを書いてまとめる活動で終わる構成である。Read and Thinkでは、3回視点を変えて読むことで、英文を読む力の育成を図るよう工夫されている。(2年p. 19, 22-23, 26)</p>	<p>○二次元コードを読み取ると、用例辞典で教科書本文を検索したり、思考ツールを活用して考えをまとめたりすることができる機能があり、自律的な学習者を育てるよう工夫されている。(2, 3年p. 1)</p> <p>○Small Talkのページが設けられており、帯活動の際に様々な話題が展開できるだけでなく、Expression Listを活用し、表現の幅を広げられるよう工夫されている。(2年p. 145-149)</p>	<p>○各学年の巻頭に「学ぶ方コーナー」が掲載され、それぞれの学年に応じた主体的な学びを支えるよう工夫されている。(3年p. 4-5)</p> <p>○1年1学期の各UnitにSounds and Lettersを掲載し、小学校で学習した単語を用いて「音と文字」のルールを学ぶことができる。小学校の学びを定着させるとともに、自分の力で読み書きのコツを身に付けることができるよう工夫されている。(1年p. 18)</p>	<p>○理科、社会、美術など、他教科の内容を英語で読むコーナーが豊富にあり、他教科で学習したことを生かしながら、読む、説明する、話し合うなどを通して技能が高まるよう工夫されている。(3年p. 40)</p> <p>○各Unitのテーマとして、防災や動物保護といった、日常生活で生徒に意識してほしいテーマを盛り込んでいる。(3年表紙裏)</p>	<p>○題材や人物を世界の国々から設定したり、「ダイバーシティブィメモ」を掲載したりするなど、多様性への理解が深まるよう工夫されている。(3年p. 8, 1年p. 16)</p> <p>○1年では、巻末に語順カードが付いており、カードを使って文構造を整理し、語順を理解したり、自ら文を作り出したる学習に役立つよう工夫されている。</p>	<p>○単元末の言語活動の助けとなる資料が巻末に掲載され、写真や発表の構成など、そのタスクに合った支援内容となっている。(3年p. 135)</p> <p>○1年では、Columnとしてカナダ、ニュージーランド、アフリカの文化等が紹介され、生徒の外国への興味・関心が高まる内容になっている。(1年p. 30, 53, 102)</p>
D	<p>○1年では、音声を中心に小学校の内容を復習しながら単語や音、英文の語順を段階的に学びながら中学校の学習へとつなぐよう工夫されている。語彙は、小学校の既習語606語、中学校1644語を掲載しており、そのうち約790語を重要な語として示している。(1年p. 7-20)</p> <p>○2、3年で267～376語の計5つの読み物教材(物語1、実話4)が掲載され、比較的読みやすい分量である。(2年p. 124, 3年p. 48)</p>	<p>○PROGRAMが終わる毎にReview & RetellやAction、「英語早わかり」が設定されており、学んだ内容の活用や整理ができるよう工夫されている。(3年p. 24-27)</p> <p>○Scenes for Basic Dialogsでは、イラストとともに実際のコミュニケーションが示されており、新出文法の意味・用法の理解を促し、言語を使用する場面を生徒が想起できるよう構成されている。(2年p. 8-9)</p>	<p>○Tuning inでは、本文で扱われている題材に関するクイズとリスニングがあり、題材への興味を高めてから本文にふれることができる。また、二次元コードから、関連動画を視聴できる設定になっている。(1年p. 54)</p> <p>○Coffee Breakでは、英語独特の表現や世界の文化が紹介されており、生徒の興味・関心を高める内容となっている。(1年p. 98, 2年p. 96, 3年p. 76)</p>	<p>○各学年でStep for Our Projectが4～6回設定されており、年間3回のOur Projectに向けて取り入れたい内容が効果的に紹介されている。(1年p. 44-49)</p> <p>○各学年で掲載されているPower-Upでは、実際のコミュニケーション場面が設定され、聞いて話す、読んで書くなどの複数の技能を必要とする、実生活に即した内容になっている。(1年p. 122, 2年p. 85, 3年p. 75)</p>	<p>○各PROGRAMがSDGsの17の目標のいずれに関連するかマークで明示され、生徒が題材とSDGsの関わりを意識して学習できるよう工夫されている。(3年p. 7, 1年p. 71)</p> <p>○異文化理解、国際協力、共生、環境など幅広いジャンルの題材を扱い、生徒の豊かな感性を育むことができるようにしている。(1年p. 8-9, 2年p. 92-95, 3年p. 6)</p>	<p>○学期に1回設定されているOur Projectは、グループでの発表やポスター制作など、対話を通して課題解決に向かう活動が設定され、協働的な学びにつながるよう工夫されている。(2年p. 44-45)</p> <p>○1年の巻末にはアクションカードが付いており、アクティビティなどに活用できる。</p>	<p>○ページ下にSmall Talkのテーマが示されており、既習表現や既習語彙の復習を繰り返し行うことができるよう工夫されている。(3年p. 98)</p> <p>○CAN-DOリストは、PROGRAM毎の学習到達目標が示されており、スモールステップでの学習の積み上げができるよう構成されている。(1年p. 168-170)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(英語) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
F	<p>○1年のMy Dictionaryでは、小学校で学んだ語句や表現がイラスト付きで紹介されている。語彙は、小学校の既習語669語、中学校1627語の計2296語のうち996語を発信語彙としている。(1年p. 18-24)</p> <p>○3年間で、165～488語の計8つの読み物教材(物語5、説明文3)があり、学年が進むにつれて社会的な話題を扱っている。(2年p. 82, 3年p. 78)</p>	<p>○各LessonにGoal Activityが設定され、本文の内容について自分の気持ちを整理して発表したり、読み取った内容をもとに自分の意見を発信したりする構成になっている。(3年p. 11)</p> <p>○各Lessonでは、扉には単元の目標とともに内容を想起させるイラスト等があり、まとめとして新出表現をもとに発信する活動が設けられている。(2年p. 15-23)</p>	<p>○二次元コードから、Lessonの題材に関する資料映像を視聴したり、文法解説、基本文ドリル、英和辞典、AIによる生徒自身の発音チェックができる機能にアクセスできるよう工夫されている。(背表紙裏)</p> <p>○Side Storyでは、4コマ漫画で新しい表現が使われる場面や言語の働きをイラストから推測して学ぶことができるよう工夫されている。(1年p. 72)</p>	<p>○各LessonにSmall Talkの話題例と進め方が示されており、系統的で継続的な活動となるよう工夫されている。(1年p. 73, 2年p. 63)</p> <p>○各学年4、5回のFor Self-studyには、単語の覚え方や音読、リスニングのコツなどが掲載されており、生徒が自ら英語を学習することができるよう工夫されている。(2年p. 86)</p>	<p>○各学年に1つ、日本文化や日本の良さを再確認し、視野を広げられるようなテーマが設定されている。(1年p. 105, 2年p. 99, 3年p. 55)</p> <p>○Take Action!と、それに関連したRole-play Sheetでは、実際のコミュニケーション場面や状況の中で、英語を聞いたり話したり、読んだりする活動が取り入れられている。(3年p. 53, 資料52)</p>	<p>○2、3年のLesson 1は前学年の復習レッスンとして、スムーズに新しい学年の学習を進められるよう工夫されている。(2年p. 7-12, 3年p. 7-12)</p> <p>○巻末の資料(単語の意味)では、studyとlearnなどについて、意味・用法の差異を理解できるよう工夫されている。(1年資料p. 41)</p>	<p>○全体的に読むことと話すことが多く設定されており、学んだことが定着できるよう構成されている。</p> <p>○巻末に全てのリスニング活動の原稿が掲載されており、聞く活動からシャドーイングなど様々な活動に発展させることができる構成となっている。(2年資料p. 12-16)</p>
G	<p>○語彙は、小学校の既習語600語、中学校1688語の計2283語のうち900語を発信語としている。</p> <p>○3年間で、157～502語の計7つの読み物教材(物語2、伝記3、説明文及びスピーチ各1)があり、図やイラスト、日本語による説明を参考にしながら読み進め、目的に応じた読み方ができる内容となっている。(1年p. 112, 2年p. 47, 3年p. 48)</p>	<p>○Read Aloudで音読の回数を確認できるよう工夫されている。また、Key Sentencesとそれを使ったリスニング問題により、新出の文法事項の定着を図る構成になっている。(3年p. 12-13)</p> <p>○SNSへの写真やコメントの投稿といった身近で関心の高い題材が扱われ、生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。(1年p. 60-61)</p>	<p>○全学年のActivities Plusは、生徒の身近な内容で活用しやすい。また、応答例が2文で示されることで、より豊かな会話となるよう工夫されている。(1年p. 74, 3年p. 44)</p> <p>○各学年に3回設定されているProjectは、思考ツールを用いて自分の意見を構造化及び可視化してから表現するよう工夫されている。(2年p. 128-129)</p>	<p>○Tips for ○○では、Listening, Reading, Speaking, Writingのコツを知ることができる。(1年p. 75)</p> <p>○小学校で学習した語を発信語と受信語に分け、初出のページでは新出単語と合わせて「小学校の発信語」が掲載されており、小学校での学習場面を想起できるよう工夫されている。(1年p. 118)</p>	<p>○Useful Expressionsでは、日常生活の様々な場面に焦点を当て、学習したことを実際に活用することを大事にしている。(2年p. 46, p. 106)</p> <p>○補助犬や成功を支える人々など、独自の視点での題材が選ばれている。身近な話題から英語を通じて考えることができる。(2年p. 11-19)</p>	<p>○学習の初めに目標を書き込むページがあり、生徒が学習の目標をもち、夢をもって学び続けることができるよう工夫されている。(1年表紙裏)</p> <p>○1年生ではSpring Board、2・3年生ではReview Lessonが設定され、小中連携、学年間のつながりを意識した構成になっている。(1年p. 6-17, 2年p. 6-10)</p>	<p>○生徒が自己表現をする際の手助けとなるように、巻末にはThink & Try!の活動例が示されている。(3年p. 146-148)</p> <p>○各Lessonの最後に掲載されているTaskでは、生徒がそのLessonの本文全体を振り返ったり、自己表現をしたりすることに活用できるよう工夫されている。(2年p. 124)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(英語) No. 3

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
I	<p>○語彙は、小学校の既習語578語、中学校1659語の計2237語のうち901語を発信語彙としている。</p> <p>○3年間で、50～516語の計8つの読み物教材（物語3、説明文3、インタビュー記事及びスピーチ各1）があり、目的に応じた読み方ができる内容となっている。（1年p. 55, 2年p. 82, 3年p. 40）</p>	<p>○各Unit最初のコミュニケーションを行う目的・場面・状況の設定から、Goalの活動まで言語活動に一貫性をもたせている。（2年p. 59-67）</p> <p>○Play Back the Storyでは、前学年のストーリーの振り返りができるように構成されている。また、各学年の巻末にはStory Retellingのページがあり、ストーリーを自分の言葉で発信できるよう構成されている。（3年p. 7, p. 114-120）</p>	<p>○全学年同じ流れ（1. 予想する、2. 音声を聞く、3. 映像を見る）で学習が進められるように設定しており、自律的な学習者を育てられるよう工夫されている。（2年p. 71）</p> <p>○2、3年のUnitでは、AIや災害、ボランティアといった、社会的な話題の中でも生徒が身近に感じられる内容が設定され、国内外の課題を通して英語を学ぶことができるよう工夫されている。（2年p. 59-67）</p>	<p>○Let's Talk!では、間違いを恐れずにその場でやり取りをすることを目的とした活動が設定されている。会話で使いたい語句を生徒がメモする欄もあり、より主体的な学習となることが期待できる。（3年とじ込み①-⑧）</p> <p>○「ICTを活用しよう」のコーナーでは、個別最適な学びと協働的な学びにつながるICTの具体的な活用方法が示してある。（全学年巻頭⑤）</p>	<p>○Daily Lifeでは、日常生活の身近な場面を想定し、目的をもったコミュニケーションを図ることができるよう活動が設定されている。（2年p. 18, 3年p. 28）</p> <p>○各学年のWorld Tourでは、中学生と同世代で活躍している人物を紹介するなど、生徒が自分の生活や考えと比べながら、学習意欲を高めることができるよう工夫されている。（2年p. 90, 3年p. 46）</p>	<p>○「思考の地図」では、考えをまとめた後、広げたりするために役立つ方法が複数示してあり、生徒が思考する際に役立つ内容となっている。（3年巻末④⑤）</p> <p>○「英語の学び方ガイド」では、生徒が学習を進める上で抱きがちな悩みと、それらに対するアドバイスがQ&Aの形で掲載されている。（1年p. 145-153）</p>	<p>○中学生の日常生活や学校の一場面などが描かれるなど、ストーリー性があり、先を読みたくなるよう工夫されている。（2年p. 91-97）</p> <p>○各学年にActive Grammarがあり、二次元コードを読むことで、キャラクターを通じて文法事項を整理したり、自分自身のことを話したり書いたりすることができるよう工夫されている。（1年p. 112）</p>
L	<p>○語彙は、小学校の既習語約590語、中学校約1850語の計約2440語のうち約1040語を重要語としている。</p> <p>○3年間で、75～930語の計8つの読み物教材（物語5、伝記2、説明文1）があり、漫画や児童文学作品、必要な情報を読み取るものや、登場人物の心情を読み取るものなど、目的に応じた読み方ができるように工夫されている。（1年p. 98, 2年p. 46, 3年p. 46）</p>	<p>○各PartはListen, Speak, Writeの流れで構成されており、同じ流れで活動することで新出の文法や表現に慣れ親しみやすくなるよう工夫されている。（2年p. 7）</p> <p>○Part 1-3の全てにEnjoy Chattingが記されており、扱われている題材に関連する英文が示されているため、即興で話す活動ができるだけでなく、題材について考えを深められるよう工夫されている。（1年p. 12, 14, 16）</p>	<p>○各Unitには、学習する題材に関連する写真やイラストが随所にあり、生徒が日本や外国の文化・歴史などに目を向けることができるよう工夫されている。（1年p. 65-71）</p> <p>○Notesでは、学習する題材に関連する情報が紹介され、生徒が内容を理解するだけでなく、さらに詳しい情報を得、関心をもちながら学習を進めることができるよう構成されている。（3年p. 64）</p>	<p>○各Unitの初めに、単元のゴールとしてInputとOutputの2つについて、何ができるようになるか、学習到達目標が示されている。（3年p. 63）</p> <p>○食文化についてのUnitに宗教上の理由やヴィーガンの食事についての文章があり、多様性への理解が深まるよう工夫されている。（2年p. 114）</p>	<p>○郷土や伝統文化、環境問題など幅広い内容を題材として取り上げている。また、国語科、社会科、理科、美術科など、他教科との連携を図り、教科等横断的な学習ができるようになっている。（3年p. 5-11, 1年p. 55-61）</p> <p>○各学年にLet's Listen, Let's Talkが掲載され、実生活に即した英文を聞いたり、話したりすることができるようになっている。（2年p. 16, 29）</p>	<p>○「英語の学び方」では、英和辞典の使い方や英単語の発音の仕方など、5領域をバランスよく習得するための情報が掲載されている。（1年p. 29, p. 100）</p> <p>○巻末付録には、これまで学習した基本文型や符号の使い方、数の読み方などが見やすくまとめられており、復習に役立つ内容となっている。（3年p. 111-119）</p>	<p>○巻末に前学年までに学習した基本文をUnitごとに一覧に整理してあり、既習事項を振り返ることができる構成になっている。（3年p. 113-114）</p> <p>○付録ページにWord Boxがあり、活動に役立つ語彙・表現をジャンルごとに掲載し、自己表現をする際に参照できるように工夫されている。（1年p. 138-149）</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(道徳) No. 1

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
A	<p>○35時間分の教材と4時間分の付録が用意され、各校の実態に合わせて柔軟に指導できるようになっている。小学校道徳教材を配置し、生徒自身の道徳的価値のとらえの変化を感じながら学習できるよう工夫されている。(1年p. 172-174)</p> <p>○全学年の巻頭ページに1年間の流れや授業の流れを示し、生徒が学習活動をイメージしやすいよう配慮されている。(全学年p. 2-7)</p>	<p>○全学年で「いじめのない世界へ」についてユニットが組まれている。またユニット「いのちを考える」では、防災の視点を取り入れた教材が扱われ、重点的に学習できる構成となっている。(3年p. 24-39, p. 73-76)</p> <p>○各教材末の「考えよう」「見つめよう」「ぐっと深める」では、教材の内容と実生活の両面から思考を深められるよう問いが工夫されている。(1年p. 11)</p>	<p>○NHK for Schoolの道徳番組が教材化されている。番組と合わせて教材を読むことで学習内容が理解しやすくなっている。(1年p. 120-123)</p> <p>○各学年に15本程度のコラムが用意され、ソーシャルスキルや体験的な学習などを通して、考えを深められるよう工夫されている。(2年p. 138)</p>	<p>○年度初めにいじめを題材にした内容をユニットにして配置している。様々な立場からいじめについて考え、いじめ問題を多面的・多角的に捉えることができるよう工夫されている。(1年p. 22-33)</p> <p>○情報モラルを題材とする教材が、全学年に複数用意されており、多面的・多角的に考えを深めることができるよう工夫されている。(2年p. 54-56)</p>	<p>○巻末付録に「教材一覧表」が設けられ、道徳科と他教科等との関連を把握しやすいようにまとめられている。(1年p. 190-191)</p> <p>○現在社会で活躍している人物を取り上げ、様々な生き方や考え方にふれることで、生徒が自分の将来やキャリアについて考えることができるよう工夫されている。(3年p. 122-125)</p>	<p>○全学年の巻末に心情円を付属しており、生徒が思いを可視化することができる。また生徒同士で心情円を比較することで、多様な考え方があることに気づくよう工夫されている。</p>	<p>○教材末に「ぐっと深める」が設定され、中心発問や自己を見つめる発問で考えたことについて、多面的・多角的に考えを深めることができるよう工夫されている。(1年p. 11)</p> <p>○各教材末の「つぶやき」や巻末の「自分の学びを振り返ろう」が用意され、生徒の考えが記録できるよう工夫されている。(1年p. 10, 193)</p>
G	<p>○内容項目を充足する30時間分の教材と、自作教材等と差替え可能な補充教材5時間分が組み立てられており、学校独自のカリキュラムを作成することができるよう工夫されている。(全学年目次)</p> <p>○巻頭の「さあ、道徳を始めよう！」では、道徳科の学び方や話合いのポイントが示されており、生徒が学習の見通しをもてるよう工夫されている。(1年p. 4-7)</p>	<p>○教材名の下に導入の問いが示され、教材を通してどのようなことを考えていくのか、生徒が見通しをもてるよう工夫されている。(3年p. 18-25)</p> <p>○1年から3年まで、友情を題材に同じ人物が登場する教材が設けられている。生徒の発達の段階に応じて考えることができるよう工夫されている。(1年p. 134, 2年p. 120, 3年p. 86)</p>	<p>○島根県出身の井手上漠さんの作文をコラムで取り上げ、興味・関心を高めながら多様な生き方に対する人権感覚を育むことができるよう工夫されている。(1年p. 156-157)</p> <p>○写真、絵本、漫画等、多様な方法で内容の理解を支援する教材が用意されており、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(1年p. 8-11)</p>	<p>○「いじめをなくそう」「いのちをかがやかせ」「つながり合って生きる」では、複数の教材やコラムをユニット化し、多様な教材から考えが深まるよう工夫されている。(全学年p. 2-3)</p> <p>○情報モラルについて考える教材を学年ごとに系統的に扱っており、学びを積み重ねていくことができるよう工夫されている。(1年p. 38-41)</p>	<p>○全学年「内容項目別教材一覧表」で、各教材と他教科等との関連を示し、学校教育活動全体を通じて道徳教育が進められるよう工夫されている。(1年p. 200, 2. 3年p. 192)</p> <p>○「若者議会」は、社会科や特別活動と関連付けて学習を深めることができるよう工夫されている。(3年p. 118-121)</p>	<p>○教材名の下に二次元コードにアクセスすると、「教材解説」として教材の要約が示され、内容を理解することができるよう工夫されている。</p>	<p>○1年間の学びをもとに、「よりよく生きる」ことについて考えたことを記録できるページが用意されており、3年間を通して生徒自身が成長を実感できるよう工夫されている。(1年p. 196-197, 2. 3年p. 188-189)</p> <p>○各教材に導入となる問いが示されている。また「学びの道しるべ」に3つの問いがあり、考えを広げたり深めたりできるよう工夫されている。(1年p. 8, 11)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(道徳) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
I	<p>○1、2年各35時間分、3年34時間分の教材がテーマに沿ってユニットとして組まれている。異なるいくつかの内容項目で構成され、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。(1年p.60-81)</p> <p>○どの学年にも巻頭にオリエンテーションのページがあり、1年間の学習の見通しがもてるよう工夫されている。(1年p.6-11)</p>	<p>○複数の教材をまとめたユニットを構成し、目次に示している。学校生活に寄り添ったユニットテーマが設定され、道徳教育が学校教育活動全体を通じて行われるよう工夫されている。(全学年p.2-3)</p> <p>○「まなびをプラス」で前題材の学習とのつながりを示し、考えを深めながら学習できるよう工夫されている。(1年p.44)</p>	<p>○島根県出身モデルの井手上漠さんのコメントを掲載し、身近な有名人の生き方にふれ、多様な生き方について深く考えられるよう工夫されている。(3年p.71)</p> <p>○絵本作家ヨシタケシンスケ氏の書き下ろし「なんだろうなんだろう」やコラム「やってみよう」に「今日の『てつがく』」を掲載し、考えを深め合うことを楽しめるよう工夫されている。(2年p.82-84)</p>	<p>○ユニット「いじめを許さない心について考える」が設けられており、年度初めに全学年でいじめ問題について考えることができるよう工夫されている。(2年p.36-45)</p> <p>○情報モラルについて連続して複数の教材が配置され、「まなびをプラス」と合わせて深く考えられるよう工夫されている。(2年p.85-92)</p>	<p>○各教材の「つなげよう」では、関連図書の紹介等が掲載され、他教科との関連を意識したり、日常生活に学びが広がったりするよう工夫されている。(3年p.137)</p> <p>○付録の「教材別テーマ一覧」「この教科書が目ざした〇年生の姿」により、道徳科と現代的な課題や各教科等との関わりをとらえられるよう工夫されている。(1年p.182-184)</p>	<p>○付録の「まなびの道工具箱」では、各自で考えるときや話合いのときに、考えを広げたり、分類・整理したりするための思考ツールが示されている。(1年p.180-181)</p>	<p>○巻末に「まなびの記録」が設けられ、1年間の学びを振り返ったり、なりたい自分の姿をイメージできたりするよう工夫されている。(全学年巻末)</p> <p>○各教材の「考えよう」では、めあてと2つの問いが示されている。何を学ぶのか意識できるように、「見方を変えて」や「つなげよう」の問いもあり、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。(1年p.14)</p>
0	<p>○35時間分の教材が用意されており、学校の年間行事や生徒の発達の段階を踏まえて、教材・コラムがバランスよく配列されている。(全学年目次)</p> <p>○巻頭の「道徳科での学びを始めよう！」では、道徳科を学ぶ意義や学習内容、学び方が掲載され、見通しをもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。(1年p.4-7)</p>	<p>○全学年で「よりよい社会を考える」「いじめと向き合う」がユニット化されている。また、2つのユニットは、年間を通して複数の教材から多面的・多角的に考えられるよう構成されている。(全学年目次)</p> <p>○「学びを深めるヒント」では、付箋を使ったり、イラストを比較したりすることで、対話的・協働的な学びができるよう工夫されている。(1年p.89)</p>	<p>○実在の人物を扱った教材が設けられ、「あすへのメッセージ」として、中学生に贈る書き下ろしのメッセージがあり、考えを深められるよう工夫されている。(3年p.93)</p> <p>○島根県出身の井手上漠さんを題材にした「カラフルな世界で」を取り上げ、個性を尊重することの大切さについて考えられるよう工夫されている。(3年p.90-93)</p>	<p>○各学年の6つの教材に付随している「学びを深めよう」には問題解決的な学習や体験的な学習など学習の流れが示してあり、見通しをもって学習できるよう配慮されている。(3年p.139)</p> <p>○全学年に情報モラルに関わる教材、コラムが掲載され、発達の段階に応じて多様な教材から学習できるよう工夫されている。(2年p.76-81)</p>	<p>○巻末には「内容項目別教材一覧」が示されており、教材と他教科等との関連やいじめなどの「テーマ」との関連が図られるよう工夫されている。(1年p.176-巻末)</p> <p>○コラム「視野を広げて」が各学年に7つずつ配置されており、生徒の実生活に即した内容を扱い、学びが広がるよう工夫されている。(2年p.22-23)</p>	<p>○別冊「道徳ノート」は発問を記入する欄や、自由記述欄が設けられ、指導者の授業展開によって柔軟に活用できるよう工夫されている。</p>	<p>○各教材末の「考えてみよう」には、ねらいに迫る問いが示されており、さらに「自分に+1」の問いを用いて、自分事として考えられるよう工夫されている。(3年p.47)</p> <p>○別冊「道徳ノート」は教科書本冊に対応しており、発問や自分の考え、振り返りを記述する欄がある。学びを記録することができるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(道徳) No. 3

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
P	<p>○35時間分の教材が用意されている。教材に応じて補充資料「クローズアップ」を配置し、教材の関連情報が掲載され、広く学ぶことができるよう工夫されている。(全学年目次)</p> <p>○巻頭の「道徳科で学ぶこと考えること」では考えを広げたり深めたりするための方法や、学習の流れが示されており、多様な方法で学びを深められるよう工夫されている。(全学年p.8-9)</p>	<p>○「SDGs」「キャリア」「多様性」の3つがユニット学習として用意されており、それぞれを内容項目の異なる教材から構成することで多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。(1年p.46-61)</p> <p>○各教材で主題名を示さないようにすることで、生徒自身が自ら課題を見つけ考えられるよう工夫されている。</p>	<p>○全ての教材名の下に「キーフレーズ」を入れ、授業の導入時に生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。</p> <p>○大田市三瓶町での出来事を取り上げた教材「金色の稲穂」が設けられている。県内の題材を取り上げることで、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(1年p.90-93)</p>	<p>○いじめについて様々な立場から考えられるよう、「青のオーケストラ」など複数の教材を配置している。(2年p.122-129)</p> <p>○「情報モラル」を考える教材は、SNSの使い方等身近な題材が扱われ、自分事として考えを深められるよう工夫されている。(2年p.108-111)</p>	<p>○教材の発展的な内容や他教科との関連を図った内容、関連書籍が「クローズアップ」の特設ページに掲載されている。(3年p.94-95)</p> <p>○著名な人物のライフスタイルを題材として取り上げ、「デジタルとのつきあい方」について深く学べるよう工夫されている。(3年p.10-12)</p>	<p>○日本の各地域に関連した内容が教材化されている。島根県については、大田市の中学生作文が取り上げられており、キャリア教育の視点と関連が図られている。(1年p.90-93)</p>	<p>○各教材の「考えよう」では、ねらいに迫る問いが2つ用意されている。また、「深めよう」では教材をもとに考えを深め、広げることができるよう工夫されている。(1年p.144-145)</p> <p>○学期ごとの学びを振り返る「学びの記録」や1年間を振り返り、次年度に生かす「未来への扉」を記入することで、自己の変容を生徒自身が確かめることができるよう工夫されている。(1年p.180-181)</p>
T	<p>○学校の教育活動や年中行事との関連を考慮して35時間分の教材が配列されている。またユニットを組み、重点項目について生徒の考えが深まるよう工夫されている。(全学年目次)</p> <p>○全学年、最初の教材に「道徳 はじまりの時間」が設けられ、道徳科での1年間の学びの指針が発達の段階に応じて学年ごとに示されている。</p>	<p>○現代的課題をテーマとし、「『いじめ』を考える」等、連続する複数の教材をユニット化し、テーマについて様々な視点から考えを深められるよう構成されている。(全学年年目次)</p> <p>○1つの学年につき3つの「MY PLUS」が設定されており、役割演技や話し合い活動を通してより深く考えることができるよう工夫されている。(1年p.34-35)</p>	<p>○3年間で全都道府県の情報が取り上げられている。「ふるさとに学びを広げよう」では、島根県の石見銀山遺跡とその文化的景観が紹介され、地域への興味・関心が高まるよう工夫されている。(3年p.182-183)</p> <p>○現在活躍する人物を扱った教材や漫画で読み解く教材があり、生徒の興味・関心が高まるよう配慮されている。(3年p.10-13, 24-27)</p>	<p>○実際に起きた事件を情報モラル教材として取り上げ、生徒が自分事として考えを深められるよう工夫されている。(1年p.64-67)</p> <p>○「おかしな礼儀」では日常生活の場面を取り上げ、あいさつやマナーについて、その意義やあり方について深く考えられるよう配慮されている。(1年p.14-17)</p>	<p>○「Thinking」というコラムページが、各学年8～10本用意されている。教材で学習したことを深めたり、広げたりするとともに、実生活につなげるよう工夫されている。(2年p.58)</p> <p>○巻末の「内容一覧」では、各教材と他教科等との関連が示され、道徳科との関連が図られるよう配慮されている。(1年p.184)</p>	<p>○全ての教材の終末に「自分との対話」が設けられており、教材での学びを踏まえて自分を問い直すことができるよう工夫されている。</p>	<p>○生徒が先入観をもたずに教材と出会うことができるよう、冒頭部分には内容項目の視点のみを掲載し、主体的に考えを深めることができるよう配慮されている。(1年p.12)</p> <p>○巻末には「学習の記録」のページが設けられ、各学期や1年間の学びを振り返り、生徒自身が自己の学びの変容を捉えられるよう工夫されている。(1年.巻末)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(道徳) No. 4

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 題材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 各教科及び実生活との関連についての工夫	6 その他	
U	<p>○ガイダンスと34時間分の教材が学習指導要領の内容項目順に配置されている。各学校の年間計画に応じて扱う教材の順番を組み立てて学習することができるよう工夫されている。</p> <p>○全学年巻頭にガイダンスページが設けられ、前学年の学習の振り返りや授業の進め方が示しており、生徒が見通しをもって学習できるよう工夫されている。(全学年p. 4-6)</p>	<p>○主題を章の扉にのみ示している。各教材で主題名を示さないようにすることで生徒が先入観をもたずに学習に取り組むことができるよう配慮されている。(3年p. 79)</p> <p>○全学年巻末に「ウェルビーイングカード(厚紙仕様)」が設けられ、学習の中で生徒自身が大切にしたい価値を意識したり、生徒同士で議論したりできるよう工夫されている。</p>	<p>○漫画の吹き出しのセリフを考えたり、教材の導入に4コマ漫画を配置したりして、生徒の興味・関心が高まるよう配慮されている。(2年p. 107-110, 3年p. 7)</p> <p>○「情報モラル」について考える教材は、SNSでの誹謗中傷や生成AIを用いた宿題の取組等、身近な課題が設けられ、深く考えられるよう工夫されている。(2年p. 12-15, 3年p. 84-87)</p>	<p>○様々な立場から「いじめ」について考えることができるよう教材が配置され、生徒がいじめについて考えを深めることができるよう工夫されている。(3年p. 75-78, 84-87)</p> <p>○「マダム・バタフライ～森英恵～」では、島根県出身の森英恵さんの信念を紹介し、自身のルーツを大切にすることを育むことができる教材が取りあげられている。(1年p. 112-115)</p>	<p>○キャリア教育の視点から、これからの生き方を考える教材が多数掲載され、学年ごとに発達段階を考慮したテーマが採用されている。(3年p. 40-43)</p> <p>○「環境や資源」をテーマとした教材が用意され、理科と関連させながら生徒が多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。(1年p. 136-139)</p>	<p>○哲学者の格言にふれながら、「自由」「幸福」「愛」について考え、議論する教材が各学年1つ取り上げられ、生徒の考えが深まるよう工夫されている。(1年p. 36-40, 2年p. 34-38, 3年p. 44-48)</p>	<p>○ウェルビーイングカードを用いて生徒が自分の考えを整理したり、生徒同士が議論したりできるようにし、対話的な学びの実現が図られるよう工夫されている。(1年p. 156)</p> <p>○内容項目ごとに教材を配列し、各学校の年間指導計画に基づいて教材を並び替えやすいよう工夫されている。(全学年p. 1)</p>